女學雜誌

一冊六錢

各土曜日發兌

第百八拾九號

當府內無郵稅

郵稅五厘

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

雜 女

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 189. November 30th, 1889.

第百八十九號目錄

EDITORIAL :—Total Prohibition of Prostitution.

LEADING ARTICLE :—Man and Woman in Christianity. (K. Maeoka.)

CRITICAL NOTES :—A Reply to Mr. Ochiai. "Practical Sericulture." "Zan-Kiku" by Ryūro Shi. "History of Japanese Prisons." "Mixed Tribunal in Egypt."

MISCELLANEOUS :—Anecdote of Melancthon. Want of Sleep Causes Insanity. Extract from "Honchō Ōin-Hiji." Secret of Easy Parturition. Man and Woman make One Flesh. How the Stings of Bees and Wasps are used.

NOVEL :—"The Italian Beauty" (*Continued*).

CONTRIBUTED ARTICLES :—A Query to the Writer of "Ideal New Japan." Hoku-hitsu Roku.

OPEN LETTERS :—About Rhetorical Markes About Jogaku Zasshi.

NOTES ON THE NEWEST ISSUES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

SINCE OUR LAST ISSUE.

社説 妓樓全廢論

論説 基督教男女論(前岡希聲)

批評 落合先生に答ふ○蚕桑の實験○柳浪子の「殘菊」○大日本獄制監獄史○埃及混合裁判

雜錄 メランクソンの事○眠り足らねば狂氣となる○傍乳、傍寢は子供を殺す○本朝櫻陰比事○安産の秘法○男女一躰の解○蜂の刺鍼は種々の用を爲す

小説 伊太利の佳人第一回(前號續)

寄書 謹で教を理想的新日本筆者に乞ふ○禿筆錄

開書 文學上の符號に付き○女學雜誌に付きて○交詢

時事 天烏食を齎らす○小泉梅子○[illegible]○帯上○世間○役人なくんば天下太平なり○風俗壞亂の活人畫○政黨の競爭に藝妓を要す○福田會惠愛部○横濱共有物紛議の和解

女報 貴夫人參内○赤十字社○鹿鳴舘音樂會○島田三郎氏○廢娼建議○歸朝○產婆會○養育院○監獄誓約書○埼玉慈善會○音樂學校○遊廓女工場○淑德會○遊廓取拂の議○川上婦人會

WOMEN IN JAPAN.

(1) *Some 1200 members of the Kōdzuke T. M. C. A. are said to have signed their names in the petition to be presented to the Government, urging the importance of abolition of prostitution.*

(2) *The members of the Okayama T. M. C. A., together with the students of the Normal School and of the High School there are said to have determined to send in solicitation to the Government in favour of the speedy abolition of prostitution in that town.*

(3) *In one of the recent issues, we approved of Dr. Katō's opinion about the advisability of observing our great national holidays in missionary schools. Since then we heard that one Mr. Inose, who is connected with one of the private schools at Kanazawa, went to the Kanazawa Eiwa Jo-Gakko, and having strongly disputed with the Principal about the necessity of resting school in the great holidays, made him promise to observe them henceforth. It is also stated that a letter was lately addressed to the Tokyo Catholic Girls' School with regard to the same matter, but we understand that the school had been observing the holidays a longwhile since.*

(4) *The Accounts of the Charity Concert held in the Rokumei Kwan on the 17th ult., in behalf of the Leper's Hospital at Gotemba, are said to be complete now. The result is as follows :—*

ACCOUNT OF THE CHARITY CONCERT.

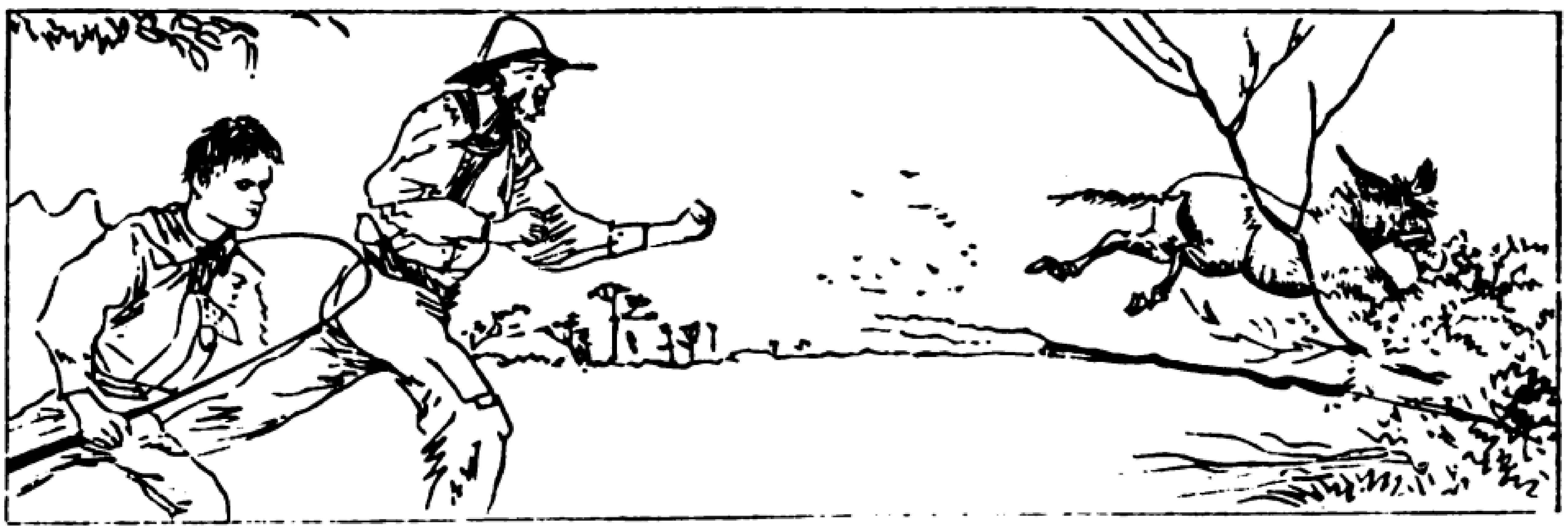
Tickets sold	yen 884.
	YEN.
Leper's Hospital at Gotemba	389.
Mission Chapel at Akabane	389.
Sekiguchi Orphanage	50.
Expenses for Chairs, Gas. &c.	50.
Total	884.

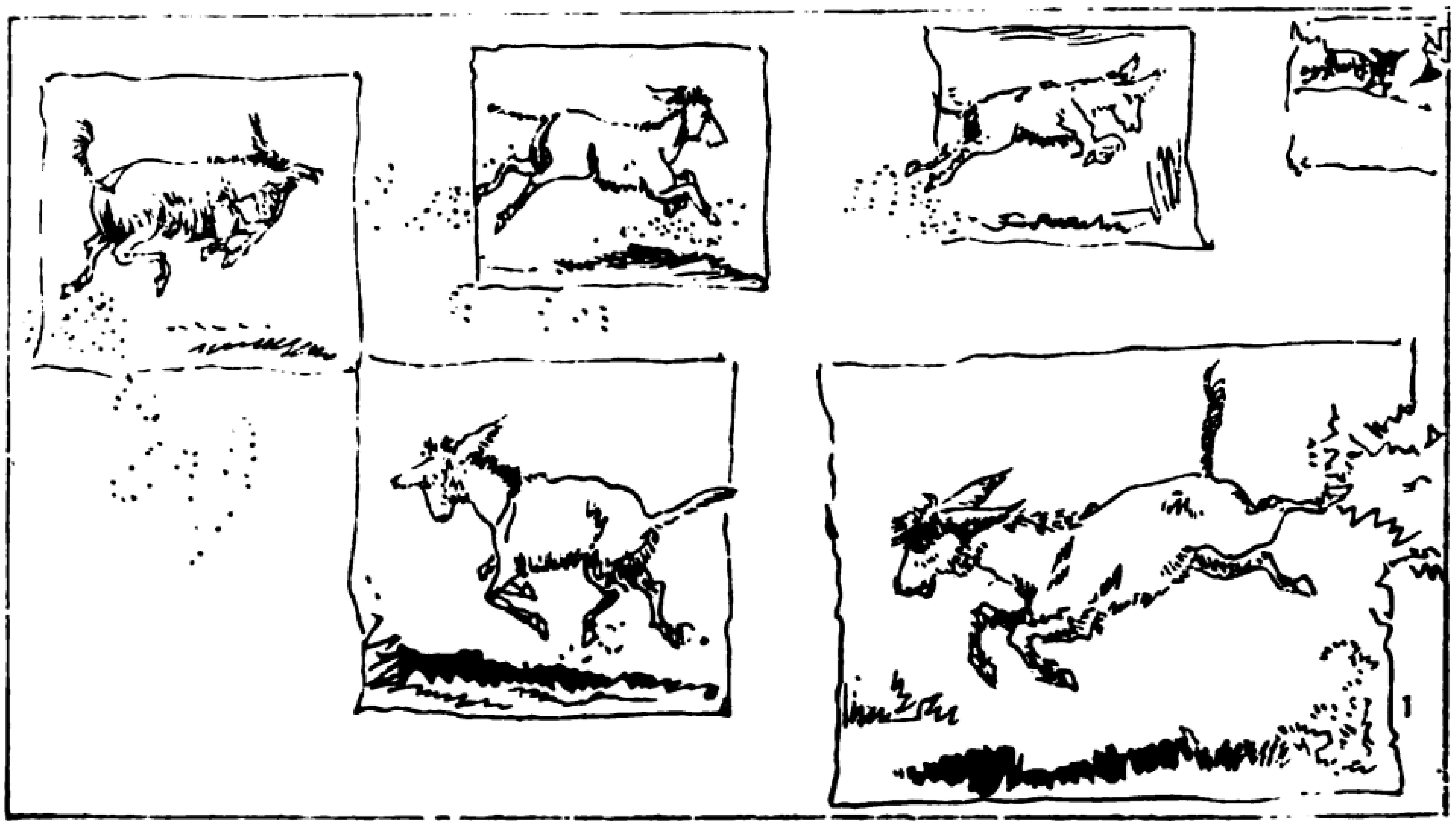
Beside the sum of 389 yen which was handed over to the Leper's Hospital, the amount of subscription sent into the office of the Japan Mail for the same Hospital was $704.15. Père Testeonide thus receives $1.093.15 in all, a sum which will help his good work much.

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

逃出し時は爽快、
天馬の心地せしが、
縛られて厩に歸れば、
夢覺め朝日高し。





Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

THE STANDARD.

標準

目錄

標準の講壇の上には名高い諸先醒が現はれて雄辯を振はれます是非御聽きなさい

標準の文壇には實のある議論や爲になる傳記が出ます

標準の爐邊、笑ふも泣くもこゝが眞實の所です朋友夫婦信者牧師さ樣々の人が樣々の經驗を談ります

標準の寄箚には諸方からの手紙が這入て居ます開きて御覽なさい面白いこさ

發行所 麹町區富士見町貳丁目壹番地 標準社

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

基督教の雑誌　標準

發行の目的

禿筆の力、能く我輩の爲し得る限り外さ我が基督教の教理如何を知らんさ欲する者をして眞理に入るの門戸を知らしめ、内ち一般基督信徒たる者をして智識さ信仰に富み天晴れ世間に對し所謂る　地の鹽たり　世の光たるの實あらしめ　又善くキリストの教會たるものをして基礎堅く屋宇高く如何にも社會に對し所謂る　山上の城たり眞理の柱さ基たるの榮光あらしめ　又基督信徒の家庭をして百花爛熳果實纍々眞に喜ふべく樂むべきの樂園たらしめ又廣く傳道牧會に從事する者をして懇切忠信にして而も老練着實なる座右の益友を得せしめんさの謹嚴なる目的を有せり

掲載の要目

講壇……本欄には諸名家の最も適切有益なる説教演説の筆記一二篇、及び簡單明白なる説教演説の要領骨組み等を掲ぐ

文壇……本欄には宗教に關する論説、聖書の文學、及び教會歴史に於て頭腦さも謂るべき聖賢の傳記を掲ぐ

爐邊……本欄には基督信徒の生活、眞正の家庭、傳道牧會上の經驗、及び基督教文學に關する批評等を掲ぐ

書簡……本欄には各地傳道上の運動、及び教會の實況等を掲ぐ

附録

宣教者…翌月中安息日に對し簡單親切なる説教數篇を添へて彼の教會もなく傳道者もなき僻遠の地孤獨の有様にあるもの或は病に臥し若くは事情に制せられて聽講の便を得ざるもの或は海陸に遠行してその群その會に離れたるもの丶爲めに聖日毎に其心を慰め其靈を養ふの糧食を得せしむ

材料及文躰

標準の紙面に掲載する材料は重に編輯主任さ社友數名の稿に係るべしさ雖も毎號賛成諸名家に乞ふて其名論卓説を掲げ又廣く四方に俊秀の才筆能文を索めて之を載せ醜悶の間讀者をして自ら愛玩措く能はざるの良雜誌たらしむべし

行文は平易を主さし假名を附し三才の童子さ雖も讀下の間主意要點を會得するに困難を覺へざらしむ

賛成名家

岩木　善治君	井深梶之助君	石本三十郎君	細川　瀏君
小方仙之助君	津田　仙君	綱島　佳吉君	植村　正久君
山本　秀煌君	古莊　三郎君	小崎　弘道君	海老名彈正君
木村　熊二君	宮川　經輝君	平岩　愃保君	杉田　潮君

（以上イロハ順）

發行日及定價

來る十二月廿五日クリスマスを祝して第壹號を發行し廿三年一月より毎月廿五日を以て定日さすさ雖も日曜日に當るさきは其前日さす

毎月一回發行　定價六錢六冊卅三錢十二冊六十錢無遞送税

本誌は一切前金御遞送の上ならでは差上げず見本御入用の方は郵券六錢（五厘切手）御送附あれ

發行所

東京市麴町區富士見町二丁目一番地　標準社

編輯兼發行者　本郷區西片町十番地南方　星野光多

印刷者　下谷區西黒門町廿三番地加藤方　矢島宇吉

女學雜誌 第百八十九號 明治二十二年十一月三十日發兌

社説

○存娼論

妓樓を設くるの善からぬ事は、妓樓の主人すら之を知れり、彼等と雖ども固より之を業躰の宜しきものとは思わず、中夜客靜まりて犬の聲聞ゆる比ひ、忽焉良心目さめて靜かに身の上を省みる時には、自から恥ぢて慚愧嗟歎するとも屢ば之れあるべし、然るに尚ほ甘んじて其の職業を營むは只收益莫大にして他に見反る程の商法少なきが爲め耳。夫れ一妓樓の主人だも尚ほ妓樓の善からぬとを承知せり。況してや我が明治政府、及び國中幾多の仁人君子に至ては、之を存置するとの何如にも國辱たるとを知り、若し之を禁止して差支へなきに於ては、一日も早く之を禁止せんと熱望せらるゝは無論言ふ迄もなきと也、但だ夫れ之を存置するの弊害は之を禁止したるが爲に蒙むるの弊害よりも寧ろ少なからんと察し、則はち止とを得ず敢て此の不潔の怪物を容し置かるゝとあらん。故に妓樓設置を可とするものは、素と不本意の究策に加擔し居るものなり、其の道徳を尊とび、國辱を恥ぢ、民をして純潔貞操の節あらしめんとを希ふに至りては、必ずや彼の妓樓全廢を主張するの論者と優劣あるとなけん、之れ先づ吾人が認ため置くべきの事也。左れば彼人々は弊害の起ると今日よりも更に甚しからんとて、得て全廢論に贊成する能わざる耳、若し苟くも然らざるの證あり、之を全廢するの利益、遙かに大なりと知らば、彼等は勿論雀躍として之に同意すべし、よし利益更に大なるに至らずとも、弊害も同じき程に止まると知らば、尚之を擇びて妓樓なからしめんとを希ふなるべし、之れ仁人君子本來の希望にして、又た我が明治政府年來の布告に照らし、明らかに其の精神たるとを見る也。

○妓樓全廢の害

然らば、妓樓全廢后の弊害とは何如なるものなるやと問ふべし。答ふるもの云らく、今の妓樓はこれ獸慾の噴火口の如し、之れあるに由て炎々たる肉情辛ふじて發散し、爲めに全躰の國土を震害するに至らず、漸く以て姦淫私通の大惡を防ぎ居るとなり、然るに、一朝若し之を禁止せんには、彼の一ヶ所の口より吐き出でたる地下の熱火は、國中滿土の地を震動して、姦淫私通起らざる所ろなく、之よりして良民の操破れ、私生の兒増し、彼の一局部に限り置きたる遊廓は全國中に擴ろが

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

り、日本滿地皆な娼妓遊び人の如きものを以て充ち滿つるに至らん、左れば遊廓を存するは居留地を置くに似たり、只だ止を得ず此處ろに限り畜りて全躰に害を及ぼすを制する耳、然るに今もし之を解放するときは八十餘州其毒に觸れて害を蒙むる所ろ一層廣大ならんと云ふ也。

一と度び聞くときは何如にも尤もに聞ゆれども、玆に斯く言ふ所の人に再考を乞ふべきものあり。其人よ、君は未だ妓樓を全廢したるとあらざれば、全廢后果して左樣の事ありとは實際に於て承知せざるとならん、言ふ迄もなく此は只だ君の憶測にして、全廢后は或は然るとならんと想像せらるゝに過ぎじ。然るに今ま實際の證跡に就き全廢后果して左樣の事ありやと考ふるに、凡そ今日に至る迄で全廢を實行したる國土の經驗に於て、現然其決果の反つて反對に出でしとを見る多きは何の故ぞや。既に前號にも其統計表を掲げたる如く、賣淫を公許せる三縣即はち神奈川、愛知、長崎等に於ける私生兒は、賣淫を公許せざる三縣、即はち岐阜、和歌山、鹿島等に於ける私生兒よりも比較上其數多く、亦た密賣淫の罪を犯せるものも賣淫を公許せる三縣に於て著しく多く、公許せざる三縣に於て反つて少なきを見るべし。之れ只だ我國に於けるのみの實例に非ず、蘇格蘭のグラスゴーに於ては、素と妓樓設置を公許して其初めは恰かも今日の我國に於ける如くに取締りたるに、姦淫の罪年々に增し害毒いよ／＼甚しうなるにぞ、前年遂に妓樓を全廢し、同時に嚴密なる警察法を以て密賣淫を禁制したるに、以來私生兒及び密賣淫犯者の數大に減じ、十年ならずして著明なる良結果を現はせしとは、同府の警察長マッコール氏の公平なる報告に由りて明確なり、氏云く只だ實益の點より之を考ふるも妓樓全廢は果して如此き効あるに由り採用すべきものなり、然れども若し之を國民道德の上より考ふるときは妓樓全廢の行はざる可らざると即はちいよ／＼明白なりと、而して我國今日の取締方の如く、法律を以て之を公許し、又法律を以て之を制治するの仕組は同じく、佛國パリ、白耳義のブラゼル等其外にも行はるゝとなるに、其弊害は年一年に太甚しく、姦淫罪、密賣淫罪等を犯すもの段々增加し、私生の兒年々に增加し、離婚の凶報又年々に增加するを見るは何如ん、蓋し其元由は幾千もあるべし、然れども其實際に於て果して如此なるは主も何の故ぞ、妓樓存置に甘んじて、全廢に掛念するの人々は、先づ切に此實證に注意し、深く熟慮せざる可らざるとあり。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○姦淫公許

抑も妓樓を公許するは、姦淫を公許するに均し、姦淫を公許するは不貞節不節操を公認するに均し、社會もし如此くんば、如此き邦土に於て一夫一婦、貞操潔白、婚家和樂等の美ある現象は固より多く有り得まじき筈也。姦淫すでに公許せられ居る以上は、人固より姦淫を惡しきことゝは思ふまじ、姦淫を惡しきことゝ思はざる以上は、姦淫の爲すまじきことをも得て思ふことあるまじ、既に姦淫の爲まじきことたるを思はざるに於ては、姦淫を犯の獸慾過半勝利を得て其慾の人を誘ふと一層に強くなるべし、此時に於ては、人元來獸慾制しがたきに由りて初めて妓樓を要するにあらず、妓樓先づ存するに由りて獸慾跋扈し、則はちいよ〳〵妓樓あらざる可らざるに至るなり。試みに彼の青年を見よ、彼等は先づ惡友に淫事を談ぜられて則はち淫情を起す、次に惡友に誘はれて妓樓に遊び則はち淫風に泥む、既に此に至ればアヘンを喫するもの、中途其慾を絶ちがたく、いよ〳〵慾に溺れて遂に全身を毒するに同じ、嗚呼其の如此あるの初めは姦淫あるもの公けに認可せられて人の之を口に談ずるだも恥ずるの嗜なみ之れあらざるに起因する也。左れば假りに世の中の風儀更に嚴肅となり、人〳〵公けに淫事を語るやうの事あらず成れりと假定せよ、如此き時に於ては青年は遊廓を去つて寺院に移れるに似たり、彼等が誘惑に會するの危難大に減じ、他より誘はれて惡に陷るの機會は甚はだ少くあるべし、吾人彼の淸く教育せられたる青年の血氣盛んにてあり乍ら毫も淫慾に陷いらざるを見、又た一方に於て彼の滔々たる書生が其仲間の交際と云ひ、有觸れたる遊興と云ひて、一段一段漸やく罪に耽り、ます〳〵其淫慾を燃すを見て、妓樓は素と止むを得ずして存するものにあらず、先づ之れあるによりていよ〳〵人をして淫ならしむるものたるを知る也。

○男子は女子よりも弱はし

試に見よ、女子の勇は男子よりも勇なる乎、其意志は果して男子の意志よりも強き乎、答ふるもの若し男性にてあらば何人も喜びて然りと云ふものはあらざるべし、然るに女子は何の勇、何の意志ありて能く男子の忍ぶ可らざるとを忍ぶ乎

○生理學者云く、勞動するものは淫情を減じ、間居するものは淫情を增すと、然らば彼の活潑に運働する所ろの男子は、生理上に於ては寧ろ女性よりも慾に動かさるゝとの少なきもの也、況んや其勇あると、意志強きと、自ら制するの覺悟多

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

きとに於ては、男子常に女性に向つて誇る者の如し、然るに女子は其止み難きの情に向つて遊廓を要するとなし、然れども男子に於ては是非とも之を必要す、若し之れなかつせば密賣淫起り、姦淫罪甚しからんと云ふ、抑も男子は何によりて如此く自制するの覺悟に乏しき乎、女子は現に遊廓を要せずして淸し、男子は何によりて又其の如く淸きとを得ざる乎、之れ男性の尤も省みるべき所也。吾人は只だ之を責むるの意を以て言ふものにあらず、只だ男性が今日の如く妓樓を必要とするは其天性にあらず自ら慾を擅しひまゝにして制するなきが故に則はち然る也と言ふのみ、亦もし男子自ら制するときは彼の女性の淸々潔々として美然貞操を守り得るが如くなるに至らんとを言ふのみ、見よ女性の間だには妓樓あるなし則はち女性の間だには姦淫の公許せられたるとなし、之を以てか女性はいよ〳〵貞操なるを得べし、男性が現今の如くに姦淫を恥るなきに至れるは、抑も先づ其間だに妓樓を存して公然姦淫を認可し置に基因せざるなきを得んや、吾人決して之を道理に訴へて言ず、深く人情に向て訴ふ、希ふらくは男性の兄弟、先づ靜かに自省し、少さか鑑みる所あつて可也。

○妓樓なし姦淫なし

故に妓樓公許の地に、姦淫多く、密賣淫多く、私生兒亦多きの理得て考ふべし、而して妓樓全廢の地に此等の弊滅却するの所以亦推知するを得べし、夫れ恥ちは愼しみの初めにして、愼みは制するの種なり、既に制するときは不德の行わるゝとなく、自らに減ず、彼の之を恥づるとなく、之を愼しむとなく、亦之を制するとなくして擅まゝに慾に耽ると雲泥の差ある論を待たざると也、故に吾人は確信せり、若し妓樓を全廢せば妓樓あるに由りて人を誘ふの惡先づ滅すべし、妓樓あるに由りて姦淫を恥ちざるの不潔次に滅すべし、如此して則はち姦淫を恥ち、恥ちて自制し、其慾を押へて節を守るの道德大に行わるゝに至るべしと、於此乎妓樓全廢后の良結果を生ずる所以明察するを得、彼の歴々として現實の證跡あるは當に然るべきとにして、我國もし今日妓樓を全廢せば、今日以后亦た彼の良結果を生ずるを疑わず。

○落葉后掃除

但し妓樓を全廢して、其后に取締を嚴密にせざれば固より弊害莫大なるべし、彼の岐阜鹿兒島等に於て初め遊廓なく、近年に至り遂に妓樓を公許するに至れるは之が爲めなり。抑そも妓樓なきとき、取締を嚴にせず、たゞ人民の道德に放任し

て之を制治せざるを、英語にレット、アローン主義と云ふ、斯る政畧の失敗するは古今各國既に例證多し、現に英國ロンドンの如きは即はち之にして其弊多きとはセームス、イグハム氏等之を痛論し、太たく其不可なるとを辨ぜり、凡そ妓樓を全廢せる后ちは、彼のグラスゴーに於ける如く嚴密に取締るとなかる可らず、次には娼妓もしくは密賣淫者たりしものを養ひ、之に職業を敎ゆるの準備例せばマグダーレンホームの如きものなかる可らず、之に副へて梅毒を治療するの慈善病院ロック、ホスピタルに類するの仕組あらざる可らず、苟くも全廢と共に此等の用意を爲して、一方には嚴しく取締り、又た一方には愍れむべきものを保護するの手段備わらんには妓樓全廢の事其弊害を生ずるの患ひ甚はだ少なきを得て、功を奏するの得甚大ならん、況んや國民の道德を養ひ、國風を淸潔健全にするとは、何等の政策よりも最も重く最も尊とむべきの處置にして、何如なる困難を侵すも敢て之を試みざる可らざるをや。

吾人が確信する所は下の如し、云く姦淫は大なる罪なり、云く姦淫の罪は人の最も高尙なる靈性を殺す、云く人は姦淫を犯さずして在るとを得べし、云く男子亦女性の如く貞操なるを得べし、云く女子は男子の慾を滿す一器具と爲るべきものにあらず、云く政府…苟くも文明の政府…たらんとするものは姦淫を公認すべきものにあらずと。此等の大本理は吾人を動かし、吾人をして大ひなる決心と信仰とを得しむ、大道坦々、上帝天に在り、世安づくんぞ此の不德なる妓樓を公然存置せざる可らざるの必要あらん。

○天下の大勢

本年九月十日、伊太利國ゼチパに於て万國廢娼會議第五會を開き、英吉利、蘇格蘭、日耳義、和蘭、嗹馬、瑞典、那威、佛蘭西、露士亞、日耳曼、伊太利、瑞士、印度、及び米合衆國の委員會合せり、十有二年前其第一會を此地に開きたる以來、毎三年一大會を催うし、第二をゼノアに於て、第三をハーグウに於て、第四を倫敦に於てし、第五會を復たびゼチパに於てしたり、而して其會議の報告する所によれば、廢娼の機運いよ〳〵熟せるを知る、議長スチウロート云く、英國に於ては撿査條例全廢せられ、印度に於ては最早死の宣告を受けんとし、パリに於ては近く衰廢せんとし、伊太利に於ては強迫撿査絶え、和蘭に於ては全廢せられたる多く、スエーデン、那威、嗹馬、日耳義等に於ては正に國會の問題となれりと。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

此の大勢の吹く所ろ獨り洋の西岸に於てせず、東洋の岸亦た清き風起り、旭日の出る處ろ先づ純潔の氣登り來らんとす、今や妓樓全廢の光すでに高し、天下の義人乞ふ起きて眼を放て。

嗚呼彼の娼妓も一と度びは愛ある父母の娘なりし、彼等今ま獸牢に在り身の卑しきを知らず、一朝一夜人に弄ばれて空笑寒樂す、仁ある婦人姉妹之を見て慇れを感ぜざる乎。嗚呼彼の幾多の少年は多く有爲の才なり、立志慷慨して郷關を出で、前途多望にして甚はだ頼母しくあるに、乍ち淫に耽りて、靈腐れ、肉病む、亦た强健純潔の君子にあらず、此の青年他日國家に立ちて政を爲さんとす、今日の世に憂ふるもの果して亦后に顧慮する所ろなき乎。眞正の伉儷は眞正の家族なり、眞正の家族は健全なる國家の基ひたるなり、彼の姦淫を恥づるとなく、女子を弄ぶとを恥づるとなく、妻に反くとを恥づるとなき不潔不親切の男子にして、倘能く眞正のホームに適する乎、嗚呼家あるなし、夫婦あるなし、和樂あるなし、此時に於ては日本國は抑そも何の礎にか立てる。

蓋し一國の安危は政黨の離合、撰擧の競爭等にのみ關するものにあらず、彼の人民の道德に關はり、人情に關はる、極めて陰微秘密の處に關すると甚はだ大なり、天下憂國の士願くは少しく思ひて轉ぜよ、今日は正に同胞相爭ふの時にあらず、吾人屢ば不潔の事を論ず、自から貴婦人の讀物を作るに於て憚かる所ろなきに非ず、左れど今日の時務亦た言わざる能はず、願くは屢ば清目を汚すとを容せ。

論説

○基督教男女論

前岡希聲

基督教の男女に對する思想を聖經上より分析してキリスト教は如何に吾人男女間に於て組織をなし又如何に思想するかを示し以て世人の之れに關して懷く處の謬見と迷夢とを醒さんと欲す而して予は觀察的考究に任せて敢て聖經上の主意を枉くるを好まず單純に只た聖經に基くを要するものなり左れば數多の聖經の文言を登載せざるべからず讀者之れを厭ふなくば幸甚。

扨て茲にキリスト教の男女論を考究せんが爲めに大別して一を結婚論となし二を離婚論となす而して序を追ひ筆を勞せんは深く予の望む處なり。

第一　結婚論

男女論を考究するに當りて玆に結婚論を序せんと欲するものは蓋し結婚の大事にして人生創新の事情なればなり而してキリスト教の男女論中最も注意すべきもの亦結婚の事なればなり予は更に聖經の教説に隨て結婚論を分析して八段となし逐次に考究する處あらんと欲す。

一、結婚は美事なり　結婚は夫婦の始なるを以て予は之れを夫婦全等視し以て聖經の示す處を論ぜんと欲す而して聖經も亦之れを全等視して敢て分つ處なきが如し聖經は厭世主義にあらず故に佛氏の禁婚論にもあらず結婚を以て甚だ榮譽ある處のものとするなり曰く誰か淑女に遇はんとするや其價は寶石より貴しと（箴卅一の十）又曰く賢婦は夫の冕なり（箴十二の四）とポーロも亦た曰ふ女は男の榮なり（前哥十一の七）とソロモン更に言を強めて曰く妻を得る者は美き物を得て而してエホバより恩寵を獲と之に由て之れを見る人間の妻を得るは尤も望むべく又尤

も悦ぶべき美事なりと云ふべし。予亦た深く此の教理を愛するなり男性としては郁々たる有徳の婦人に接し女性としては爽々たる潔白の男子に交はり相愛し相親しむ實石比するに足らず幸福此に生じて和風春を回し花開き香散し燕鼓に舞すソロモンの賛嘆ポーロの筆端克くも人生の佳境を織繡に寫せしものあり。

二、男女合体説　聖書は已に結婚の美事たるを斷言して疑はず而して更に進んで男女合体の説を主張し夫婦は人生の一大事にして自然の理に從ひ神の旨を体し人間の目的に合ふを論述せり彼の亞當の夏蛙を見たる時の言に曰く是れ乃ち我が骨の骨我が肉の肉なり其男より出づるが爲なり故に當に稱して女と稱すべしと（創二ノ二十三）モーセ之に付して曰く是を以て宜く父母を離れ妻に好合し二者一体となるべしと（創二ノ二十四馬太十九ノ五可十ノ七前哥六ノ十六弗五ノ卅一）是を以てダビデ歌て曰く女よ汝宜しく汝の民と汝の父を忘べしと（詩四十五ノ十）之則ち男女抱合するは神の豫定せる處にして人間の本分なるを示し合せて男女相合せされば未た以て完全の人と稱すると克はず抱合して始めて一体の人物たるを明になすものなり又男女合するは父母を離れ新なる家族を組織し新なる社會を創立し新社會の新人民たるを教ゆる處のものなり而して之れに更に責任を與へて曰く生育衆多地に滿盈せよと（創一ノ二十八）左れば夫婦たるものは新家族を立てゝ子孫を養育し種屬を增殖して万物を治むる命令を受くる處のものなりと云ふべし。

予も亦た痛く此の全体説を賛し男女は必ず此くあらざるべからざるを思惟するなり妻は則ち夫のものなり夫は則ち妻のものなり是に於てか其の身を顧ると妻の如く妻は又其の身を顧る夫の如く又夫を見る已れの如く妻を見る又已れの如く疾病危難共に痛痒を感じ平安喜樂共に快樂を分ち憂喜苦樂之れを伴ひ相守り相愛し相愼み相親み比目となつて死を辭せず鴛鴦となつて仙を羨まず相向ては轉た相親しみ並び棲では一生を共にするの決心起り偕老仝穴北邙一片の塵と化する更に恨みなきの情愛を全ふすべきなり彼の殺風景なる東洋的の夫婦は如何にして存立するを得るやこは讀者の夙に知らるゝ處にして犬猫的運動をなし綠野忽ち一朝の白露に凋し秋風枯木に對するの感あり其の快樂は汽車より遠山の翠を望むが如く其心配はトンネルを過ぐるものゝ如し之れ等は未だ男女の相愛すべきの理を知らざるものにして彼我一体なるを悟らざる處のものなり彼我已に異体なり之れ則ち他人視するものにして眞愛の存せざる結果ならざるはなし希くは江湖の万人神を敬し其の旨を体し男女仝体の理を悟り相愛相親する處あれ左れば高輪の月は品川專有の観にあらず東台の花又他山のものにあらざるなり。

三、獨居論　男女合体は聖書の明白に示す處にして結婚は其の大に賛成する處のものなるや前二篇を讀て聖書の明にする處を知らん然るに此に實に怪みに堪へざるものあり堂々たるキリスト教會に於て雄々たるキリスト信徒にして古來今日に至る迄て單身獨居處女を以て世を送るものあり又世を過さんと決心するものあり而して之れ獨り處女のみにあらず男子も亦た如斯もの世上甚多し三世期より六七世期の頃に於てアントニーは徒弟をナイルの河邊に導きショ ンカシオンは道士をローン河邊に伴ひベネデクトハカシの山中に庵を結べり之より以來道士盛に出でゝ當時の傳教師中婚せざるの多きを見るに至れり然れども元始の道士の性質厭世のものとは其の性質大に異なれりと雖ども主義とする處は仝しく獨居的なり又古來婦人をして獨居主義を抱かしむるものありて今日に至て尚は盛なり然れども之れ又古代のものと今代のものと其の性質を異にすれども主義とする處は一なり如此男女共に一思想に出でゝ今日に至て依然たるもの何ぞや彼等果して何をか根據とする其の基礎たるもの何ぞやキリスト教は樂天教なれども又樂世教なり世を塵界火宅苦腦のみを以て充滿せる處なりと告けず人生を勞苦艱難困乏を以て擁蔽せらるゝものなるを示さず然れども或は厭世的の思想を抱くものなきにあらずソロモン曰く太虛の虛太虛の虛なる哉凡て有る處のもの皆虛なり人日の下に於てなす處の勞苦何の益あらんや我日の下に於てなす處を見るに視よや皆虛なり風を捕ふるが如し智慧多ければ則ち憂も亦た多し智慧を增すものは憂を增す傳道書第一章團遊喜樂之れを如何ん金銀寶玉又賴むべからず歌竟舞女前に歌ひ後に舞ふ目は樂に飽き耳は音に疲る然れども視よや之れ皆虛なり風を捕ふるなり智慧も智識も又喜樂其の爲す處のもの一として勞苦ならざるなく一として無益ならざるはなし第二章に預言者イザヤ、エレミヤ、ダニエル、ヨナ、ナホムの數氏を始めキリスト、ペテロに至る迄て往々過刻に此世を難し姦惡なる世は末の日の來る時に燒かるべし汝邪なる世より救ひ出されよ禍なる哉此世を何に譬へんやと世界を最も惡むべきものとしポーロ、ヤコブは曲邪なるものを以て地に屬けるものとせり又人生を以て蝸の角とし汚れたる白き墓に比せしと數々なりき故に一方面に立て聖書を觀察すれば聖書は厭世主義を教ゆるものゝ如く人生を夢幻視するが如しと雖ども之れ決して然らず之れ眞に表裏を洞察せざる偏頗論に過ぎざるなり然るに世の人之れに迷ひ痛く一方を觀察して愈社會の如意ならざるに感じ人生の汚濁なるに驚き俄に情慾の潔白ならざるを恐れ神を恐れ身を愛し罪を惡むの一念終に人間なして一轉して獨居的生活を營ましむるものあり然れども全く聖經の大理に明ならざるの致す處にして爪に彼等の迷たるに外ならず聖書は罪を惡むと雖ども世を惡むにあらず又情慾を惡まざるなり人間神旨に合ふて抱合するとあればとて何ぞ身を汚さん何ぞ世に恥ぢんや之れ全く彼等の迷たるなり」

以上は厭世主義より基因する獨居的思想にして古代に甚た多しと雖ども今日は大に其の勢力を失ふ者の如し而るに此に亦た教理を誤解するより起る獨居的觀念ありポーロ嘗てコリント人に書き送りて曰く我未だ婚姻せざる者及び寡婦に云はん若し我が如くして居らば彼等に善きなり若自ら制すると克はずは婚姻するも可しそは婚姻するは胸の燃るより愈ればなり又曰く婚姻せしものは如何にして妻を悦ばせんと思ひ煩ひ婚姻せざるものは如何にして主を悦ばせんと思ひ煩ふ嫁せざるものは身も靈も潔からん爲め主の事を思ひ煩ひ嫁せしものは如何に夫を悦ばせんとして世の事を思ひ煩ふなり人若し其の童女に對して己が行ふと理に合はずと意ふとき童女期過ぎ且つ已むとを得ざるとあらば其の意に任すべし此は罪を犯すに

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

あらず彼等に婚姻せさすべし左れど人若し其の心を剛毅にし已むを得ざるとなく又已が隨意に爲すことを得て其の處女を留め置んと心の中に定めなば然するは善きとなり如此すれば嫁するもの丶行は善し左れど嫁せざるもの丶行は更に善しと(前哥七章中抜)此等の事によりて之を見るにポーロは結婚を好まざるもの丶如し而して婚姻を以て人々の淫行を免かれん爲めなるを示せる言あり曰く然れども淫行を免かる丶爲めに人各其の妻を持ち女も各其の夫を持つべし(前哥七の二)と又曰ふとあり汝等婚姻のとを凡て貴め又牀をも汚すと勿れ神は苟合又奸淫するもの丶罪を定むべしと(希十三の四)前のものは甚だ明白にしてポーロの意を見るべしと雖ども后ゝものは陰に結婚を快しとせざるもの丶如し然れども予を以て見るにポーロの言論は決して結婚を惡むものにあらず結婚を贊するものなりと雖ども彼の言茲に出ずるは彼れの主の日即ち世の終末の近からんとを豫想せしによりてなり世の終末忽然として來らんには夫婦たるものは一層の心慮を加ふべきを以て其期の爲めに處女たるもの結婚せざるを可とするもの丶如しキリスト世の終末を示すにエルサレムの滅亡と混交せり(馬太の二十四)故に弟子等は之れを判明すると克はずポーロの如きは其の生存間に來るべきを信ずるもの丶如し曰く夜已に央て日近けり(羅十三の十二)其日愈近くを見て益勤むべし(希十の二十五)と又曰く主の時臨まんに至り活きて存せる我儕は直に寢れるものよりも先たゞじ(前帖四の十五)視よ我汝等に奥義を告ん我儕悉く寢るにはあらず末の鐵の响らんとき忽ち瞬息間に化せん(前哥十五の五十一)と此の信仰あるを以てポーロは甚だ處女な氣遊ひたるのみ其の教訓の今日に適用すべきにあらず左れば之れを基とせる獨居的人間はポーロの迷に迷はされて迷信に流れたる宗教論者ならざるはなし。

此の他又主の爲め神の國の爲めに止むなく情慾を制する獨居者あり之れ又宗教に基因するも以上の二者とは大に其の性質を異にせるものにして今日の社會に甚だ多し以上の二者は古代の人に甚だ多く歷史に注意するもの丶克く知る處なり而して此の種のものは今日の婦人に其の多きを見る其の基原とする處は母の腹より生じ來る寺人あり又人にせられたる寺人あり又天國の爲めに自らなれる寺人あり之れを受納るとを得るものは受け納るべしと(馬太十九の十二)のキリストの言に由れるものにして社會頻繁傳道事業の愈擴張せざるべからず婦人社會の改良行はざるべからず之れに由て女性たるもの其の力を極めて運動せざるべからざるは當然なり殊に聖經は女人に負はするに傳道の責任を以てし始めに罪を犯したるの故によりて又之れが爲めに盡すべきを勸告す左ればマリヤはキリストの母となりマルタマリヤは其の深切の友となる初教會に於て眞の力を有し熱心を有し十二使徒を奬勵せしものは實に三四の婦人なりき而るに茲に困難となすべきものは婦人嫁すれば其の業務は家內的となり家政より養育待遇の事業ならざるべからざるは家族組織上自然に生ずる道理なり故に天下の事に馳せ單身獨歩クリミヤに赴て懸々兵士を慰藉すると克はず肌を漠北の寒風に洗ふて憐愛の情を表する克はず傑然として酒鬼を驅逐し斷然として女權を擴張す共に甚だ不倒ならざるはなし左れば雖騎縱横其の鋭鋒を逞して戰ふに若かじと世を愛し神を愛し又人を愛するの熱心は遂に餘儀なく自らの情慾を忘れ或ひは滿足するの時あらざらしむ其の情實之れを察すれば憐涙限りなしと雖ども事情に當て社會上より見るときは彼等の功業の偉大なるには謝し且つ益其の事業の擴張せんとを希望せざるはあらず然れどもキリストの言を見るも斷として獨居を命ずるにあらず爲し得べきものは之れを爲すべしとの無頓着の放言たるに過ぎず。

聖書の示す處の獨居的思想は以上の如きものにして他又あらざるが如し左れば聖書は亂暴に飽迄で獨居を主張するものにあらず又厭世主義のものにもあらず婚姻を可とするものなるや知るべきなり。

四、　撰擇論　聖書は又人々結婚するに相互に撰擇するの必要を示して雅各を拉結の爲めに繋がしめたり(創廿九ノ十五ヨリ)モーセ又ザッポラを撰めり(出二ノ二十一)其の他好例少からず然れども之れを略し今只だ聖經の示する處を指摘して滿足せんのみ夫婦相撰は大事なり輕忽なるべからず古來流行せし輕卒なる結婚は聖書の嫌ふ所なるを見るべし又撰擇は敢て血統に由るにあらず位階に由るにあらず容貌に由るにあらず異邦人なればさて敢て禁ぜざるなり民數記ノ十二章全躰を讀で之れを明にすべし之れを讀まば神の痛く此の弊を叱せるを見るなりポーロは主にあるものはギリシャ人とユダヤ人或は割禮あるものと割禮なきもの　は夷狄或はスクテヤ人或は奴隷或は自主の分別なき(哥羅西三ノ十一)を斷言せり之れ最も然るべきとにして彼の滔々たる輕薄子の西に走り東に走り色の爲めに迷ひ富貴の爲めに心を傾け容色の爲めに力なきもの何ぞ久しく其の愛を繼ぐを得んや愛は全情の人ありて富貴容色にのみ由るにあらず予は痛く世間撰擇の當を得ず或は淫或は橫又或は輕薄なるに嘆せざるはあらず夫婦は一生の好朋友なり一身の手足なり百年の苦樂茲に存す何ぞ輕忽浮靡の如くにして可ならんや然れどもポーロは結婚の事を論じて異宗結婚の不可なるを陳ぜり其の言に曰く信者と不信者と耦ふと勿れ蓋は義と不義と何の侶なるとかあらん光と暗と何の交はるとか有らんキリストとベリアルと何の合ふとかあらん信者と不信者と何の干はるとか有らん神の殿と偶像と何の仝じきとかあらん夫れ汝等は活ける神の殿なり(後哥六ノ十四ヨリ)と之れポーロの結婚の亂れたるより幼稚なる信者の信仰を失はんとを恐れ又其の主義を全ふせざるが爲めに甘味の交情を結ぶと難く甚だ快からず爲めに全情を表する克はらざんとを心慮せるが爲めなり予思ふに之れ大に然るべき道理ならん經驗に徵し又心情の開發に訴ふるも明白ならんを信ずるなり左り乍ら場合に由りて止むべからざるものあり今日日本の境遇の如きこれなり予思ふにポーロも亦た此の境遇に立てば斷然として此の論を確守實行するの難からんとを思惟するなり只だ一般の大理を示したるのみ。(未完)

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

批評

○落合先生に答ふ

さまでに心附かで記したりしを落合先生が一顧を給はらんとは夢にも思はざりし、さは云へわれ自ら信なりと思へるを記しゝなれば先生が御質議に對し答へざる事のあるべき。

先生は森田氏と御交際あるや、森田氏の文章を味はれし事なきや、森田氏の文章論と異說あるや、かゝる事はわが知る處にあらず。たゞ先生の「悲哀」は不思議にも思軒居士に似たるをもて思軒宗の一分子となせしのみ。未だ謦咳に接せざれば先生の生平高說を知らずと雖も、たゞ近日の「悲哀」を拜讀せし時には思はずも思軒居士と違はざるを審しみたりき。わればかりにあらで麹町とやら云へる黃表紙博士めきたる人も小文學中にさ曰はれしあらずや。

先生は國文學者なり、思軒居士は漢文學者なり。まいて先生は一派の見識を持たるゝと聞けば、如何に考ふるも先生豈に思軒居士を奉ずるものならんや。さる故われも先生をもて思軒居士の崇拜者と目するを欲せざれども餘りに仝じきを如何せん。例はゞ衣冠したる人の衣の色を異にせる如く、紅からんも黒からんも衣冠したるに相違なきは萬人共に認むる處なるべし。先生は生平思軒居士を知らずと曰給はゞ、思軒居士或は先生に似たるならんか。豐公の面猿に似たるか、猿の面豐公に似たるか、そもくわれはその何れか是なるを知らず。いざさらば落合宗の名目を立てゝ思軒居士をもて歸依の信者となさんか。殘念なる哉、思軒居士生るゝ事一日先生より早きを。先生の文と森田氏の文とを一々比較する如きはわれも大に望ましけれど、今は羇旅にありて錦繡屏風たる「しがらみ草紙」をだに行李中に收めざりしを憾む。

われは思軒氏に服するものにあらで寧ろ氏の反敵にたつ者なり。思軒居士が翻譯の大家たるを知れど小說家にも批評家にも文章家にもあらで、もし遠慮なく申せば文界の無賴漢と目するより外なし。唯居士に恐るゝ處は其歸依者頗る多くしていつの間にか居士をもて文學の大家とせしにあり。是れわが思軒宗の一派を文章壇に置く所以にして、先生は云ふまでもなく南翠先生も落花漂絮先生も必ずや叱責せられんと覺悟したりき。南翠先生は馬琴派より起り諸大家の文格を參酌し漂絮先生は遠く西鶴より來る、共に先生が源氏を基とせらるゝに仝じけれど「朧月夜」も「機姬物語」も思軒居士に大同なるを如何せん。被せたるは銀か金か知らねど其體はいづれ仝じか

る物にて天淵月鼈の差違ありと思はれず。われら凡眼其美はしきに眩惑して識別するに苦しむ、先生幸にそのたがへるを示して可なり。

もし先生をして思軒居士を奉じたりとせば大に先生を傷つくるに似たれど唯近日の「悲哀」は不思儀にも思軒居士の文格に暗合せりとせば何ぞ先生の面目を害すべき。思軒居士はとにかく今日文界の大家なれば、先生の最拙文字たる「悲哀」が是に仝じとて何ぞ先生の面目を害すべき。

自ら思へり、今の世國文學は衰へ、啻に紫式部時代の糟粕を嘗むるのみにて先人に凌駕するの活氣更になしと。また自ら思へり、世間に小國文學者はあれど眞の大國文學者は現はれずと、しかるに今先生の御反駁を得て始めて知りぬ、落合直文先生の文章は一種特別なる事を、いて文章會の雜誌を繙きて先生の御文を玩味せむ。

さは云へ先生も小說家なり。小說をものして口を糊する輩と同列にあるを潔よしとし給はずとも、近日の「悲哀」は小說界に一生面を開きしものとし云へば、よし先生は小說家ならざるも「悲哀」の作者は大小說家とこそ云ふべけれ。仝じ美術にても畫工は音樂師に口を容るゝを得ず彫刻者は織錦者を支配する能はず。落合直文先生は國文をもて聞へたれど、「悲哀」をものされて小說界を睥睨されし大家なれば、是を大小說家ありと云ふもよもや首肯せられざる事あらんや。

方今我國の文學社會は實に錯雜千万なり、よく之を整理し之を進歩せしむるものは誰ぞや。われは是を小說をものして口を糊する輩ありと考ふ。見給へや、英國ビクトリヤ女皇時代の文學はエッサベス以後の盛大を致したるが、其首坐を占むるスコット、ヂッケンス等は總て小說家にあらざるはなし、今に到るまでなほ鳴り響くシエークスピーヤも戯曲の大家あらずや。先生並に他の國文學者が奉ずる竹取源氏等の物語類も小說にして土佐日記枕草紙等も當時の俗文をもて記しゝものなり、たゞ時代遠くして大に醇雅に見ふるをもて、是を最も高尚優美として今日の時文――就中小說文躰を卑猥なりと罵るは從來國文學者の固陋にして落合先生の卓論にあるまじ廣く云へば哲學も政治も理學も文學の一部あらんが、その極粹は戯曲と小說の二類に止まる。然るに此二者を研究する人なほ進歩せしむるの力なしとせばそも誰人かよく此任に當るべきぞ。今の小說界實に人なきにあらず、紛々錯雜たれども其中自ら將材の器を供ふる者あれば文學を整理する事豈に

難しとせんや。殊に先生の如く「悲哀」ある新小説をものされて一臂の力を貸さるゝ篤志者あるを見ればいよ〳〵心強し。たゞかの日本文學の黄金時代たる文錄前後の作を味はゝざる輩のよくする處にはあらざるべし、況んや思軒居士の飜譯だに見ざる者に於てをや、あゝあはれ。

二十三日御反駁を拜見せし後認む

落合直文先生御もと　静岡市に於て　ミ、カ、

(91) 蚕桑の實驗　大本一冊五十葉定價三十錢　發賣所東京南傳馬町穴山

養蚕の事は女學に志ざすものが分けて心掛置べきものあり、惟ふに今后我國を富ます第一の産業は養蚕にてあるべく、而も女子の職業として之に尤も適し且つ益多きは必らず此の業の外に又とあるまじと信ず。本書は岩手縣東和賀郡小山田村なる昌厚氏の妻高橋喜波子が、多年養蚕に心掛けて學び得たる所ろ多かりければとて、同村に農事談話會ありし時強いて請われ席上に演説せられしものゝ筆記なる由、養蚕の要點より蛹を殺す法に至る迄で二十一篇、悉とく實驗に出でし者と覺え一層目出たし。吾等は家々の妻をして暇あらば皆な蚕を飼わせたく思へり、況して自ら之を飼ふのみならず其飼へる經驗を物し世に公にして人を益せんとするに於ては、吾等が喜び更に言いんやうなし。

社末　たけ子記

○柳浪子の「殘菊」　其川子

恐ろしい奇警の眼孔を有するものもあればあるもの、人間の死するまぎはを寫さふと云ふ作者の念力是ほどの大望心はあるまじ。死は誰人も經驗せざる處にて如何なる想像家ありとも其萬一をだに知るを難んずるに、柳浪子と云へる悟道の達識が虚心平氣に寫し了りたる其腦力其筆才は誰かよく及ぶべき。日本小説道初まつて以來死の瞬間を描寫したるものよもや此外にあるべしとも思はず。他は兎にも角にも是着眼計りで作者に相當の贊辭を呈して可なり。

新著百種の先達紅葉山人＝涙を以て主眼とす＝と斷はられて以來一般の讀者は新著百種ならで涙百種ならんなど罵り、次の號の涙は如何にと眼科学の講義を聞く心地もせしが、是も涙上戸の「色懺悔」に初まり悔し涙の「風流佛」に到るまで涙に二ッの文字はなけれと誠の涙と覺ゆるはなし。此「殘菊」――是や誠の涙ならんか、いとし可愛の我子を殘して良人の留守に迷土へ旅立せんとするなれば此上の悲しき事あるとは思へず、是に泣かぬ者あらば是れこそは鬼か蛇か、よもや人間にてはあるまじ。涙主眼の小説爰に到つて其實を顯はす。柳浪子又エライ哉。

柳浪子の文章は言文一致躰中に一派をなす、これ漣調にあらずして自ら一種の古躰を備ふ。もし言文一致を進歩したる傍聽筆記躰とすれば是は眞正なる言文一致と云ひがたけれど、極の寛大をもて目溢らした處で――これも一派と承認したる處での＝今ぞ忍ばるゝ秋布の恨＝などは名を言文一致に假りて心を從來の文躰に寄する曲者なりと曰はざる可からず。

兎もあれ百餘頁のものを一下直筆に流水の如く卷を繙きて盡ふを忘れしむるは大手筆と云ふべし、新著百種六冊中情をもて勝るもの此篇を以て第一とすべし。「風流佛」は悉く虚をもて主とし、文字は自在圓滿にして疎豪をもて一派をなす。「殘菊」は實をもて主とし、文字は誠實信切にして平易をもて一派をなす、共に非凡の妙を稱へ奇警の眼孔を有するは尋常作者の企及する所ならんや。

四十七頁の「指を折て見ればお蝶の髮置にモウ三ッといふに」以下結局に到るまで讀んで有ても覺へず調子づきて徐ろに我あるを忘れて批評する方角をも失ふほどの妙文字……イヽヤ文字に妙はなくとも思へば不思議不思議と云いたいほどの有情文字。新聞の雜報に何某氏が死人だと無味に二三行が並んでも路傍で葬式に出遇てもあんまり心持のよくない死、其の死の來歷を細かに寫したのだから――よし平凡にしても、ト曰つて失禮だが――誰が泣かずに居られやふか。胡椒よりも効能の見へる涙の良劑、是に氣の附かぬは新著百種作者諸氏の不覺であらふ、是に圖號を極めたは柳浪子の奇才で……がなあらふか。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

些細き暇壇は曰はずさもの事だが、五十四頁にお花が詞に「あゝ鶴龜々々」さあり、今時の娘には珍らしき言草、御法談を聞く故だか知らぬがこんな詞は七里けつぱい。五十七頁の母の詞、病人の娘に向つて何たる慳貪の叱り方ぞや……醫者の手前もあるに。その前頁に醫者が「何故です」さ反問するはさても氣のきかぬ醫者ごの。六十八頁より以下十四五頁の間の妄想を寫したる手際はうまきものなれざ、ハタさ思ひ出したり――仝じ此作者柳浪子が大和錦の中に織込まれたる「二たおもて」によつくも似たる趣向ありしな。いつも妄想に變化はなれざ二度までも仝じ隅田の花を持出されずさもの事、猶更妄想は胸中を馳する怪物にて眞面目な心にて捕ふべきものにあらねば朧氣に寫すをもてよしさするに此「殘菊」は前の「二たおもて」さ仝樣に判然さ描かれたるは大に實際に近からず。魯西亞の小説を見るに神經家が起す妄想を寫せし所多かれざ益々細密にして愈々朦朧たり、是でなくば何で妄想さ云ふを得べき。七十八頁に「私はその頃モウ戀さ云ふ事を知つて居たか知らん、ごうもまだ知らなかつた樣だよ、でも屹度知らなかつたさ自分ながら保證れない樣だよ」さある如き常ならば情を穿つたさ褒めてもよからふが、此病苦――いま黄泉に旅立たんさする苦から出る妄想にこんな精密な考慮がよも浮ばんやこれは常の健康の時の事、心が心に存在して居る時の事。八十三頁に電報云々さあるが、そも何の電報？歸期の電報であらふか。それを根岸に持たせて遣つたさは五十頁に「母樣何ですチエ」云々さ答へた頓智のあるお花には似合はしからぬ不出來な言譯。八十五六七頁の忘想、是も精細にすぎて大に其實を失ふ。「お蝶一人では心細く思召ふ――是非男の兒が一人はなければまた母樣の樣に御心配をなさらればなるまい」の如き愈々其實を失ふ。九十三四頁諸行無常の實相を寫したり。魂魄は消ふるものか去るものか、是れ人間の一大問題にして佛教も基督教も其根原を尋ぬれば唯是だけが解らぬので起つたもの。無常の風は何處を吹く鳥邊山の烟はいつ上るさ常はチンさ澄し込んでも萬物平等自他無差別一度生れたからは是非さも一度は死なねばならぬ、其死ぬ間際には淨土地獄を方便さ笑つた事があつても魂魄の行處に迷はぬ人やある、されば南無阿彌さ唱名を申すも此煩腦を去て見性成佛するが爲め(御法談にはあらぬぞよ)。此妙境を寫した處作者の腕前敬服。九十六頁にお香が醫者ごのに對する詞はあまりに思切りすぎてわるし、こゝら今少し煩腦を離れずにごこまでも！ばを殘す樣にあらまほし。九十九頁に「ほゝ乳母がまたそんな御無理を」さあるは是れ亦言辭仝斷、今や盛の十九の歳で良人の留守に死ぬる者の詞か。悟つて見れば野晒の骨さなるが果なれざその悟らゝぬ處を寫すが涙の興奮劑にてあらん。百一頁以下實境、作者曾て死者に接し目撃せし處悉くその筆端に現はれしなからんか。結局スターを問にして七ツの紐解もモウ今年さ筆を止めたり、お香は死んだのか生き返つたのかさらに解らず。こゝ玄妙不可思議の處則はち作者が妙腕ならん……か。われ未だ隱微を發見せざれば彼是云ふまでもなし、世間幾多の感服したる人はよい事さ思ふべし。

紅葉山人の「南無阿彌陀佛」は外物を假りて其悲慘を寫し、柳浪子の「殘菊」は內情をもて其哀働を描きたり、いづれ仝じからねざ共に普ねく江湖の讀者をして人生の朝露夕電に似たるを感ぜしめたり。われも評し了りて徐ろに無常をはかなみ佛壇に向ひ線香一炷……南無阿彌。

○大日本獄制監獄史　金港堂版

小原重哉氏の撰なり、三篇に分ち上古史中古史近世史さす、上古中古の二篇は甚はだ簡なれざも、近世の部に至りては極めて綿密なり、現今の獄制を知らんさするには差當り此書の外に見るべきものあらじ、撰者は明治四年官命を帶て香港新嘉舖等に獄事を調査し、爾來引續き刑部に勤務せらるゝ事なれば其記事亦た尋常書生の臆測に非ず、現今獄事の問題漸やく盛りになり來らんさするさき此書を得たるは實に喜ぶべき事なり。

○埃及混合裁判　同前

原敬氏の著なり、此頃條約改正の事を談ずるもの多く埃及の前例を引證し、外人法官任用の甚はだ危うきことを述ぶ、而も細かに埃及當時の狀勢を知るもの少なし、此時に當つて本書出でしは世を益し論者に熱慮を與ふること至つて多し。

感謝すべし、群馬縣會に於ては
妓樓全廢に可決したり　(電　報)。

雜録

○メランクソンの逸事

ゆかり譯

メランクソンとは誰れもしる日耳曼に於ける宗教改革者の一人なり六合雜誌にくわしく出であればその働きなどはいまさらかきしるすにも及ぶまじ、たゞその一斑を申せば至て愛敬者とでも申す可き人物にてウイテンボルグの府中に於ては人々みな彼れを愛し彼れが來る時はみな喜び迎へ中にも府内の靑年輩は大抵彼れが朋友なりと云ふ。嘗て他邦の大學より呼び寄せん事をメランクソンの元へ報じ越せし事あり多くの朋友等はこれを聞て彼れが去らん事を恐れさま〴〵の遊戯あるひは慰みなどを以てひたすら彼が心を引かんと企てたり、恰もよしメランクソンはウイテンボルグの知事クラップの元を屢々訪問せりクラップに一人の娘ありて名をカツリーンと呼びぬ、みめかたちいとうるわしく、心のさま優にその風采品格の高きは見る人の讃たゞえものとなりぬ、メランクソンの度々これを音づるゝは心ありての事なるべしと一人が評せば他の者も然あらんなど、云ひ合へり朋友等はこれを聞て、こは彼れが足を當地へ止むるよき方便なり彼のカツリーンを妻となさば必ず永く吾が輩と交るを得べしと四五人の友垣集りていざ今日はメランクソンを訪て見んと彼れが元を音づれぬメランクソンは友の訪ひ來りしにうれしくさま〴〵のもてなしせり軈て一人の友進みいでゝ、

いかにカツリーン孃と婚儀を結び賜わずや、忠實なる御身が友なる吾等は熱心に力を致すべきに、吾がともがらをしてその喜びにあづからしめ賜へ、

などかわる〴〵すゝめたり人々メランクソンが答へなきにあきれ果て頭を擡げて打見やれば彼れはグリーキの古典を見つめて知らざるものゝ如し友達共は茫然として言なく歸り去れり。メランクソンは日頃より新約全書、及びグリーキの古典を愛讀せるが其の讀むに連れて先の日友人がすゝめの理あるに感じその后も屢々勸告を受くるによりて終に承諾するに至れり、これメランクソンが年二十四の時なり。友人等は其間に奔走してその年の八月結約の式を擧たり、されどメランクソンは此等の事に關しては最も冷淡にして意を止めざるが如し、彼れ歎息して云ふ、

神我れをしてかくあれと定め賜ひたればこそ我れは斯くなりぬ、諸友の勸告我れをしてかくあれよと申されたればこそ我れかくなりぬ、余はいまだ勉學せざるを得ず、勉學し

て諸友人が厚志に對し其望みを失わしめざる樣勉むべし。

メランクソンがこの語を一讀すれば吾れも人も彼れが如何に冷かなる愛情をその妻たるべき人に送るかを氣遣かわざるを得ず。然り、メランクソンは最も冷淡なりき、然れど彼れが眞正のホームを知らざる心のうちに、彼れが眞の伉儷が愛情如何なる可きか味わざる思考の中に、妻たる可きカツリンの賢なるに對しては歎賞敬服少らざるもの丶如し、彼れ云ふ、

カツリンは其性質も其教育も大に神より出てし愛の爲に感化せられしもの丶如し、これぞ天の我れに賜ひし惠なるか。

其年の十一月に於て婚儀の禮典を擧げたり、ジヨン、ルーサーはじめ名ある學者名望家はこの祝會に列せんためウイテンボルグへ參集せり。新婦の愛情は新郎の冷淡なるに比して如何に美なりしよ、メランクソンは婦人の愛情に煖められて漸次に進み出だせり凛然たる嚴冬の積雪中に今や藹惠風到らんとするの有樣とはなれり、メランクソンはホームの眞味を曉たり、今日迄意を止めざりし世の婦人は彼れの上には何如に價わる天の使でありしよ、終にメランクソンは自家の外に則ち、その賢妻カツリンと其愛らしき小供を見るの外に幸福なしと信ずるに至れり、フランスにある舊友偶々彼れを訪ひたり、彼れ右手に書を携へ左手に小兒のゆり床を動かして獨り樂しめり、其友は彼が前日のメランソンに異なる甚だしきを見啞然として喫驚せりと、カツリンの優愛こそよくメランクソンが幸福を全ふせしめその事業を爲さしめしものなるべし噫。

○眠り足らねば狂氣となる　山下石翁

狂氣は多く眠りの足らぬより起るです、醫博士コルチル氏の說に、狂氣の元因中尤も近く尤も多きは睡眠不足にてあり、左れば狂氣の遺傳ある人にても若し好く眠るやうにすれば氣違ひになると少なきものなり、故に狂氣の靜まりし人又は躰の弱き人は成るべく規則正しく十分に眠るやうにすべし之れ彼の尤も不幸なる病氣を起さぬ工夫の最も好きもの也と。又博士スパイサー氏の說に、人間は起て在る間に腦を勞らし眠れる間に之を償ふとにて、其道理ほど明白なるは少なき也、ゆえに睡眠足らずして腦を勞らし、いよいよ勞らして之を養ひ償ふと不足すれば腦はますます勞れ則はち狂氣となる、左れば昔し英國に罪人を眠らせぬ刑罰ありしに、此刑を蒙むりし罪人は皆な發狂したるよし也。諺に云く、寢る子は丈夫と又多くの事業家は云ふ眠らねば勉强出來ず、皆此謂也。

浮世觸處無定實、豈獨南柯是夢中。

○傍乳、傍寢は子供を殺す　山下品軒

老者が子供と一處に眠るは子供を殺すやうなものです、總じて子供は生氣活潑にて躰内のヱレキとても云ふべきものが至極鋭敏であり、何物でも其氣を傳ゆべき所ろあれば直ちに其氣を發散しますが、之に反し老年はすでに活氣減じ成るべく外より勢ほひを吸ひ取らんとするゆえ、其觸るゝ處ろの人間より生氣を奪ふとの多いものです、左れば老人と子供と一處に眠れば、子供の生氣は段々に奪われ、老人は之を奪ひて多少盛んになりましやう。昔しダビデ年老ひて若き婦人と共に寢ねしは、外の望みでなく只だ此の生氣を受る爲めでした。又獨逸の醫者ヒウヘランドは學校敎師の格外に丈夫なは始終年若き書生に接近するからだと申しました。又或る大病の母は長らくの病氣で度々死に掛け醫者も毎度匕を投げた程なるに、不思儀にも助かりて久しく持こらへしが、之と同時に常に母親に接近して居りたる子供は段々に靑くなり痩せ衰ろへ、遂に母と同時に死にました。又一時新聞紙上に評判喧ましかりし彼のマッサチウセット州の或る男は、四十日間何物も食わず、只だ水を飲み、細君の手を握るのみにて生き存らへしと申ます、此等は皆な年老ひし人に取りての大モウケなれど、其割に又た若きものに取りての大損なり。つまり老年と子供と一處に寢ね、十時間の餘も躰を合わせて眠るときは、其間だに生氣を奪ひ取らるゝと莫大ならん、斯る子供は元氣自づから減り、何んとなく靑くなり、次第〳〵に衰ろへて遂に大病となり、之が爲め死するともあるべし。

○本朝櫻陰比事　其川子

本朝櫻陰比事は松壽軒西鶴の著なり。もと棠陰比事より來る、故に卷首に曰く「夫れ大唐の花は甘棠の陰に召伯遊んで詩をうたへり和朝の花は櫻の木陰ゆたかに歌を吟じ」とあり。編中記する處悉く當時或は先代の公事訴訟にして、或は支那本より飜案せしもあらんが、今日に傳へて人々の云ふなる大岡仁政録は槪ね此書より作意せしものなり。西鶴著述中第二位に居るものなれど其趣向奇なりし故、大に後人の材料となりしのみか、かの仁政録をも誠實越前守の裁斷なりと信じる人も多かれば其一節を抄録す、斯は今の河竹默阿彌翁が傑作鼠小紋東君新形中に仕組しものなり。

形見の作り小袖　東やまの花談義きくほど後家は殊勝なる心底の事

むかし都の町に和漢の織絹の商賈して其身利發にて一代の分限二千貫目をたくはへ家の榮へる世さかりに此亭主四十

二にして相果てける。今年二歳の娘に財寳殘らず是をゆづりぬ。此母親三十三にて後家をたて髮をきりすてうき世を恐るゝ形となり獨子の成人を願ひ後夫をもとむる望絶て佛道に立入。其後家職をやめて諸事親類のさしづにまかせ金銀は兩替にあづけをき世帶は人少なにして男女七人めしつかひ何の不足もなかりき。ある時東山の花談義に一家殘らず參詣すれば門の戸外よりしめて留守なしに出でゆき其くれがたに歸りしに。奥坐敷に人影見へければ皆々驚ろき晝盜人よと聲々に取まはし片隅に追込みとらへ見しに南隣の一子いまだ十九になる角前髮の若者あり。出合ひし町衆も手首尾わるく何とぞ沙汰なしにと談合すれば此男子格別に進みて我れ爰にしのぶ事後家合點と云へばさてはと各々疑かゝりて此義何とも言葉なし。後家泪を飜してさりとはさりとは毛頭覺もなき難義を申かけられて口をし。自が子といふても恥かしからず我不義致さば世間にしらせず相手あり此事に於ては身を八裂にせらるゝとも僉議とげずにはをくまじ、女も女によるべしと一筋に胸を定め人の異見も更に聞入れずして御前へかけ込み右の段々御訴訟申せば。其男をめされて後家と密通ならば文通の證據を出べし女の筆跡なきに於ては盜賊の沙汰のがるゝ處なしと仰せられければ。互にしのぶ事に御坐候得ばその度々に火中いたし候よし申上る。その分にては科をのがれじ其外何のしるしもなきかと重ねて御たづねありし時。男しばし思案して肌着の淺黄小袖は三つ蝶の紋どころつきしを恐れながらぬぎかけて御目にかけ、是はあの後家の下着にて御坐候が風の吹く夜のわかれにきせて歸し候、是より外にはさし櫛香包みなどくれられ候、かやうの事なるに盜人の沙汰は是非もなき仕合と泪眼になつて申上る。其風俗見させらるゝに衣裝の樣子定紋まで替る所なし。あの小袖は後家がとらしたかと仰せられし時、此女房少しのうち物を申さゝりしが世の外聞思はれ隨分つゝみ候へどもかくあらはるゝは大かたならぬ因果と存じ候いかにもあの若年ものと密通仕候と申あげる。然れば何の仕細もなし後家無用の云分にあまたに難義をかける曲者なれども是れ女心なり罷立と御意ありし時此男首さげ、今少し言上申度御事後家密通と申上らるゝにつきまつたく密通にて御坐なく候皆私が惡事をたくみ申候其義はわかげにてよしなき事に親の金銀大分につかひすて候を此程吟味いたし勘當仕られ候をかう〳〵一門中わび事に

て相濟みそれより內證きびしくいたされ次第に不自由に罷成り隣の有德あるをかねて存じフト出來心にて盜に入候此小袖も手前にてこしらへをき自然穿鑿の時身をのがるゝ言譯のためばかりに是ほどまでたくみ私惡人に相極まりしと心底ありのまゝに申上る。此段御前にきこしめし分られまづ後家が志ざしわが身をすて世の聞の恥をかまわず密通にして人の命をたすくる事都ひろけれども又あるまじき女ぞ此慈悲心を深く感じさせ給ひこれらは女のかゞみなればすこしもくもらぬ心入自今はいよ〳〵諸親類うしろ見を仕るべし又男の段は惡事重なり此度仕置物あれども後家がこゝろざしを恥ぢて助かる命をすて即坐に相手の難を申しわけ致せし事若年ものには神妙におぼしめされ是に依て極命の所御赦面なし下され京都をお拂ひ遊ばされけるとなり。

○安產の秘法

十一寸月人

女性の厄難は分娩の痛苦にてあるなり此の如く必死の汗膩を流さしめ悶躁叫喚筋を勞し骨を苦ましむるものは他に比類なきなり幸に死を免れて安產すると雖も產后の日足惡しきときは身躰衰弱形容枯痩して花の朝月の夕も空しく病床に呻喚して其身の因果を發怨言ざるべからず玆に於てか女性は罪科深しと東西說くところを同ふするなり。然れども女性果して罪科深きか到底其苦患を脫すると能はざるか十九世紀の理學は決して然答へざるなり既に男子の勞苦を輕めて生活を自由安易ならしめたれば獨り女性をして依然傳來の苦痛に惱ましむるの理あらんや。近頃哥羅方及亞的兒の用法漸やく世人の注目するところとなり外科施術に於ては尤も其功用多きを知るに至つて一層其施用を弘張し來り產婦分娩の痛苦を減ぜしめんが爲め之を用ゆるに到れり若し夫れ之を施せば產婦をして安らかに睡り疲勞せる神經を活潑ならしめ分娩を速め其苦を免れしむる等功能一にして足らず眞に救命の良藥といふべし然れども產婦强壯分娩平易なるときは反つて之を用ゐざるの正產に如かず唯月を閱して分娩せざるか苦痛激烈なるか或は難產にして手術を要するの時にのみ施して大功あるべし又決して漫りに用ゆべからず必らず醫士の指揮に隨ふべし是れ劇藥を謬れば反つて不虞の禍を來すべければなり。

○男女一躰の解

輝雄

聖書に男女合して一躰となるの語あり吾人及世上一般に信ずるが如く其兩々相配して一家に住食するが故に此く名づけたるにあらずして深く生理上の眞理を穿てる語なるとを信ずる

なり其所以を推せば女子一たび婚姻せば其夫に化せられて大に自己肉躰の形織を變成す是れ自己稟質の半ばを割除して男子の特質を容れ男子も亦然するを以て爰に同質双躰を造る双躰なれども同質なるが故に一躰とは云なり。今其證左を尋ぬるに實列尤も多し婦人再嫁して后產たる兒の容貌骨格酷はだ先夫に似たるものあるが如き又ストルツエレウスキ氏が墺洲旅行記の中にある一奇話同國の一婦人嘗て白皙人に嫁して兒を擧げたるもの后離縁して更らに數度自國人に嫁したれど最早一子をだも擧ぐると能はざりしが如き皆先夫の特性に化せられて其形織を變じたる者なるべし。又ダーウィン氏の著書中之に似たる一話あり英國產の牡馬一旦斑驢に接して雜種を生ましめたるもの后純粋の馬に接せしめたれど產むところのもの悉ごとく其背に斑條を持ちて亮然たる雜種なりと之に依つて看れば形質變生は獨り人類に限らざるが如し。

以上は肉躰に於て男女互に同化するの實證なるが若し是を心の感化に於てせば其結果如何ならん彼等は同じ食卓に對い同じ室に住い出入に相提携して須臾も生活の境遇を殊にせざるなり其見るところ聞くところに異なることとなし其笑ふところ怒るところに差あることとなし同一の感情常に同時に發す玆に於てか夫快然たれば妻は其苦を未聞に解し婦悄然たれバ夫其妬むところを未知に曉る眞に其然る所以のものハ同氣相通じて一團躰となるが故にして他に說明のあらざるは昭けし。

○蜂の刺劔ハ種々の用を爲す　北海學人

蜜蜂黄蜂は鋭劔を磨て人畜の近くものあれば必らず刺す其身を防禦せん爲なるべし。されど之を以て防身の具と限る可らず其用仍ほ多々あるなり。蜜蜂は冬の到るを豫期して花園に奔走し精を竭して糧食を蓄ふると雖も家内に懶惰なる雄蜂ありて暴食强飲少しも飽とを知ざれば忽地蜜を食い殫し悲慘の飢饉に全家族を亡すが故に之を恐れ速かに刺劔を揮つて之を殲滅すると云ふ。又黄蜂蜜蜂の種類にて牆壁に圓形の小孔を穿ち內に卵を藏置する者あり卵殻に孵化して蛘蜡となり繭と變じ終に蜂となる其間食物なくては生存すると能はず親蜂は豫め卵の傍に小虫を貯へ置きて之が食物に供するなり然れども小虫全く死せるものあらば忽ち腐敗して惡臭を放ち到底蛘蜡の食とならざるを以て彼は小虫を捕ふれば必らず一度刺貫し毒を注入して無感半生ならしむ斯くせば月を經るも肉緊り味淸く依然として新鮮なりと云ふ。造化の妙一機能く數多の目的を兼しむ不測の關係吾人の未だ識らざるもの實に多し。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

小説

○伊太利の佳人

第二回　今　昔

ゲーテー著
愛軒居士譯

豪商は自ら我身に向ひ

汝抑如何なるものか晩年に至り永久慣れ來りし生活を捨てゝ新生活と交換するとは實に愚かなるとなる哉汝も今は知りつべし吾々が今日まで不絕勉めて搜索し來りし物を如何にして我思想より且つ吾手足より離別し得べきや若し今日まで魚の如くに水を愛し鳥の如くに自由なる空氣を愛せし余にして一朝總ての貨物と共に富の花なる妙齡の佳人と共に大厦の中に閉ぢ込められたらんには我身は爾後如何に成り行くべきぞ余は一家の内に閉居して滿足に我財貨を樂まんと希望せしに之に引換へ今ハはや一物をも收得する所なければ却つて皆失ふたるが如くに見ゆるなり世の人は拮据勞動して財貨を層積せんとする者を見て愚なる人と思ふは甚だ道理に反するとなるぞや勉强こそ即ち幸福にして此等の人は獨り間斷なき勉强を以て無上の快樂と爲し收得したる富の如きは其意とする所にあらぬぞかし余とても業務の足らざるが爲に不幸禍となり運動の足らざるが爲に疾病となれり今にして他に決定を採らざれば死に到るも遠からず。妙齡可憐の妻を捨てゝ遠く相離るゝは固より思切たる大膽の企なり愛嬌あり情感に富める少女を手離して無聊に苦め感情と慾念に放任するは是れ適當なる道なるか幾多の年若き錦衣公子は今日既に余が窓外に頻々往來するに非ずや渠等は今日既に寺院に於て公園に於て余が妻の注意を引かんと求むるに非らずや余若し此地を去らば先づ如何なる事の出來くべきか余の妻は魔力に依て此危難を逃れ得べしと信ずべきや否々渠の齡より見るも躰質より見るも渠が戀愛の快樂を忍び得んことを希望するは愚の至りなり汝此地を去らば歸鄕の日に當つては妻の愛情も信實も家名と共に失ふなるべし。

豪商は此推察と疑惑とにて暫時其身を苦めしが此推察と疑惑は遂に豪商の病狀をして非常に惡からしむるとはなりぬ妻や朋友親戚は其病の原因を知るによしなければ只だ悲嘆に沉み居たるが豪商は尙ほ一度我身の上に立返り相議する所あり種々思案の後に高く叫びけるは、

愚なる人よ汝も今の如く不快の永續せば妻を殘して獨り先立ち妻は他人の掌中に皈するならん此ばかりの妻を守護

せんとて汝は左程心を痛むるか假令婦女に最上の財寶として尊重する所の信實心を失ふの危難に遇ふとも我生命を保たんことを求むる方少しは頴智なる事ならずや又道理にはあらざるか世には現在其身は眼前にありながら彼の財寶を失ふ者も多かるぞ保つべからざるものを繆見して保たんと耐忍するも少からず汝は何故に此くばかりの財寶を破壞するの勇氣を有し能はざるや此の決心は實に汝の生命に關するぞや。

豪商は此語と共に屹と心を勵まし船人を呼ばしめ從來の法に從ひ船に荷積み順風次第直に出帆すべし万事準備してあらんことを委托し然る後妻に向ひ心の中を打明け次の如くに語り出せり、

卿は家内の擧動を見て余の旅立の準備を爲すことを知り能ふならんされども決して驚くこと勿れ余は卿に向ひ余が再び航海を企んとの念慮の起りしことを白狀すべしされども決して嘆くこと勿れ余が卿に於ける愛情は終始同一にして變ることなく終身余の身を去ることなし余は實に今日まで卿の側に在りて受けし幸福の價値を知るなり然れども余にして竊に無事懶惰の不平を爲す可からざらしめば猶一層其價値の淸潔なることを感ずるなるべし余が舊來の情癖は再び發せしなり余が從前の習慣は再び余を引寄せたり卿よ願くは余をして再び「アレキサンドリア」の市場を見舞ふことを許し給へ余は卿の爲に最も價ある物質及最も貴重なる物品を得んとて今彼の地に到らんと非常なる熱心を有するなり余が所有せる財産は總て卿に放任すべければ卿の兩親親族と之を消費して樂むべし相分るゝも暫時の間なれば不遠復た數層の喜悅を以て相見るべし。

可憐の妻は少しく涙を垂れて優美なる怨を含み夫に向ひ吾身は夫と共に在らざれば一時も愉快の月日を送ることを得ずされども夫を留むるは到底叶はざることなれば唯だ此上は如何に相離るゝも決して吾身を忘るゝことなからんことを願へり。

寄書

○謹て教を理想的新日本筆者に乞ふ　　石丸頑生

抑も物一端に走れば必ず亦た他端に向て走るは數の免れざる所なり空想堂主人が理想的新日本も亦た此軌範を脱する能はざるか余も固より銅臭を帶びたる交際を好むに非ず啻に之を好まざるのみならず併せて我國文弱の氣風を慷慨し挽回せんと務むる者なり世態を視て悲み金を望んで勇むに至りては余も亦た嘗て空想堂主人に一歩も讓らざる者なり然れ共其手段其理想に至りては未た悉く主人に同する能はざるなり麥飯を食ひ味噌汁を啜りて逸感令釋なく胸膛を撫ふるは西洋料理を食ひ咖啡を飲み其思ふ所を行ふ能はず反て其思はざる所を述べ脅肩諂笑するに

優ると雖も豈に之を以て新日本理想的となす可んや煖響を食ひ山茶を飲て天下の大勢を論じ古今の人物を評するは美果佳茗を賞して茶器扁額に詠ひ庭園の梅花にまで詠ふに優ると雖も豈に之を以て新日本理想的となす可けんや蓬髮垢面飄々然として來飄々乎として去高笑怨罵するは櫛髮整襟恐々として案內鈴に手を觸れ詠笑以て主人の意を迎ふに優ると雖も豈に之を以て新日本理想的となす可んや。

抑も理想とは何ぞや好み要むるの意なり未だ有らざる者を本來に望み要むるの意なり然らば豈に稍々其優れるの故を以て之を直に理想す可けんや將に完全無缺のものを得て初めて理想す可きなり無遠慮蓬髮快は則ち快なりと雖も財產なきが故隨て責任薄く爲に天下の大勢を論ずるに往々空論に失するの弊あり整襟會釋貧は則ち貧なりと雖も時勢を詠ずる往々採る可あり兩者豈に完全の者ならんや空想堂主人固より只だ兩者の比較を示し明に其孰れを理想す可やと書立てざるを以て余も亦た茲に無益の辯を費すを好まざるなり然れども其一家を立るの手段に至りては深く之に同ずる能はざるのみならず稍々反對の位置に立たんとする者なり夫妻各自獨立獨居し其財產は互に毫末の干渉をも絕たしめ妻は夫の姓を稱せず夫は妻の姓を稱せず兒女は父母の姓に偏冠せずと言ふに至りては何たる極端ぞ。

各自其財を分ち之を守るは當になす可きの務なり然れども夫は外に事業の失敗を招き悄然失望の淵にあるに當り妻は內に財を擁し優然として樂み慢然として高笑して曰く夫よ汝は汝自ら失敗を招きしなり肯て吾財に干する勿れと是れ果して眞の夫婦の道か果して獨立獨行乎乞ふ夫妻は二體にして一心なるを記憶せよ五體の中若し其一を傷けば全心痛傷を感ず況んや其半身をや妻は夫の痛めるを視よ豈に安然たるを得んや夫は妻の悲るを視て豈に泰然たるを得んや憂の淚を共に袖に酌み喜びの肩を共に延し爰に初めて夫妻の情あるなり然らば財產は各自に監理するも共に亦た之を共有せざるを得ず一見すれば共有產にして內に自ら犯す可らざる責任の存するあらんとを欲す然れども全く干渉を絕つと言ふに非らざるなり。

「チーヤフル、ホーム」は悲愴を減却し喜悅を增進し亦た患難にも欣喜をなすの塲なり啻之れのみならず忍耐をして益々練達せしめ希望を生じ夫は外に活動して能く事業を成すを得妻は內に優步して能く內を調正するを得るの塲所なり此の樂しき「ホーム」を生み出すの父母は則ち夫妻なり夫妻獨居して「ホーム」何れにか生せん若し「ホーム」なくば疲勞月を踏で歸る夫の悲精誰か亦た之を洗淸して活潑ならしむる者ぞ優動內を調ふる妻の美功誰か亦た之を稱讚して益々優境に驅る者ぞ乞ふ夫妻旅行の爲暫時眠食を異にし歸宅するに及んで益々交情の親密なるを視て獨居の弊に陷る勿れ夫妻にして靈を以て相交り相親まば風波如何にして起らんや乞ふ肉を以て靈を忘るゝ勿れ。

爰に夫妻の心情ハ日夜相抱合し纏綿綢繆百年一日の如くなるを知るあらば區々たる冠姓豈に喋々するに忍びんや只だ從來の習慣に隨ひ嫁すれば夫の姓を冠し婿せば妻の姓を冠して可ならん乞ふ親和を變じて放恣となす勿れ。

末段に兒女養育の法に至りてハ殆んど贊成すと雖も七歲まで其母十四歲まで其父之を養育するが如く殆んど機械視するなく凡そ十七歲までは父母の威嚴を以て共に之を養育し十八歲より社會に出て獨立獨行の途を要めしめ父母恩愛の淚を灑し恩愛の接吻を爲し以て其兒女を涵養せば必ず驕子とならず頑兒とならざる可し世の姉妹よ乞ふ只だに空想に失せず熟慮其可を採て之を用ひんとを空想堂主人謹て教を乞ふ。

○禿筆錄

雁陵居士

第八　眞正の讀者

最も善く福澤氏の文を讀む者は德富氏なり最も善く德富氏の文を讀む者は鈴木氏(天眼子)なり蓋し英雄にあらざれば英雄の文を讀むこと能はず才子にあらざれば才子の文を讀むこと能はず唯文字を觀て精神を觀ざる者は眞の讀者にあらざるなり福地氏の文、中江氏の文、森田氏の文も亦眞の讀者ありて善く讀まん諸氏安心せよ。

第九　文人の狡猾手段

文人の文を弄するは策士の辯を弄するが如し時としては針小の事を棒大にして讀者の感情を飛揚せしめ時としては富嶽を丘埕の如く言ひ做して人心を鎭靜し或は空文字を以て大問題を塗抹し或は處女の情を以て激論を結ぶ福地德富二氏最も此術に長ぜり高田氏鷗氏の如きは未だ妙處に到らず。

第十　豪傑君の放言

牛込に一奇人あり常に放言壯語す人之を呼んで豪傑君と云ふ余も亦一日友人と共に豪傑君を問へり談酬にして豪傑君坐中を睥睨して曰く老猾なる氷川翁と無頼着なる三田翁との外は乃公の敵手に非ず自治黨の旦那衆や改進黨の御坊さん達や大同團結の椀白連は針の先が觸れても泣き顏するなり食事が一時間後れても死ぬる樣に言ふなり彼等を怒らせることも至極容易である喜ばせることも至極容易である氣違ひにならせることも至極容易であるさ。

第十一　又曰く

食に魚なしとて飯器を毀ち、氣に喰はぬ奴と共に居るのが嫌(イヤ)じやとて門口を毀つが如きは未だ〱小供である、毀つ位なら地球を毀つ位でなくては……

第十二　御姫樣では困る

此頃大津より來りたる人の話に大津の女學校では生徒が他日細君になりたる時の爲め輪番に自炊させることにせしが或る日素麵を湯出させしところ其日番に當りたる御姫樣は素麵を湯出る法を知り玉はず冷水の中へ素麵を投ぜられしと見へ糊

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

を煮たる如くせられ一同が最早たべ得らるならんと食堂へ出掛けしとき臺處に在せし二人の御姫樣は泣き顏せられしと東京の女學校では生徒に自炊させる所もなき樣なるが女生徒の母親達は時々令孃にも臺處の手傳ひを命ぜられよ然らざれば令孃が他日一家の主婦となられし時に例の御姫樣の如きこともあらん。

第十三　鐵面皮なるは潔白なる證據なり

猜人中に於て妾に媚ぶる者は心情の潔白なる證據なり猜人中に於て妾に媚ぶることを能はざる者は心情の潔白ならざる證據なり故に鐵面皮なるは潔白なる證據なり

第十四　世人皆妾を愛敬するに似たり

人或は此世界を不平の塊物の如く言へども妾に於ては此の如き人の心事を解すること能はざるなり到る處、温言と和色とを以て迎へられ毫も苦痛を感ぜず世人は皆妾を愛敬するに似たり故に妾も亦世人を愛敬す。

第十五　兇徒の姓名を史上に記する勿れ

芳を千載に流すこと能はずんば寧ろ臭を萬世に遺さんとは白亡自竄の徒に免れ難き感情なり余は日本の歷史家にも支那の歷史家にも西洋諸國の歷史家にも以後は决して兇徒の姓名を史上に記することなからんことを切望す。

開書

○文學上の符號に付き

梅迺舍主人

主人文學上の符號に付ては豫て不審を抱きし處貴社雜誌第百八十五號藤の屋樣のものせし一條の文を讀み始めて其符號の無用にあらざる譯を敬承するを得望外の幸に御座候今一步進で其符號の在る所の讀方（假令は——は長音——は抑揚聲の符號と云ふが如し當時新聞又は雜誌及び小說等に用ゆる符號を悉く列記して）御敎示あらんことを願度候然らざれば無用に非らずとの御說貫かざる樣に存候藤の屋樣が貴社に斯々願ふものは富士見町五丁目に住む梅迺舍主人なり。

○女學雜誌に就きて

讀者三人

此頃の御改進目覺しきほどと敬服致候何卒此上とも十分に文學的の批評を載せ改進新聞にもありし如く眞に近體文章のことに付きて御盡力有之度候（駒場農林學校邊）

——段々の御進步は喜こばしけれど妾等に直接益になることは漸やく少なくなり暗夜只だ一つの燈火が妾等の步ゆみよりも早くずん／＼と先に驅け行く心地し妾等一身にとりては心細さ限りなく候あわれ亦た前年にありし如く通信女學の如きものを御副へありたくはべる、かしこ

仙臺　井口の賤女

——妾事久しく御社の女學雜誌の御惠を蒙り此頃にて漸く方角も分り候樣に相成り常々鳴謝罷在候且又此頃交詢の部を御開き下され其はだ有益に相感じ申候却說御雜誌中時々御名句とか御秀吟とか御記載有之候得共妾には猶に小句一つも相分り申さず常に殘念に存候左りとて山中の月もる家の事なれば問方もなく只今まで殘念とのみ念ひ居候處幸ひ御雜誌の交詢部の開けたるゆへ實にうれしく妾の爲には最上のお師匠樣に御座候云々

熊本にて　大江ひで子

●以上色々の御注意御思召有がたく奉謝候女學雜誌の讀者は數千人有之候ゆへ御一人／＼のお好みの如く十分に改むることは出來申すまじけれど此頃も樣々計畫せるとの候へば遠からざるうち尙續々と目先を新らしくし幾分か貴意に報ひ可申候。（女學雜誌記者申す）

交詢

問の部

（四）。女子職業の事に付ては世間色々の說も有之候へ共何分是こそと思ふもの無御座毛系編物は專務の職業と爲すには不足寫眞術時計師は何んだか賤しき感覺有之音樂繪畫醫術等は至極適當の職業には候へ共余り意すゝみ兼申候他に優美にして高尙なる職業のお心當り在らば敎示を仰ぐ（一番町8、o五番町m、m）。

（五）。余が友人にて妾を迎へんとして其擇び方を余に謀られしが固より婚儀は大切に致すと勿論なれども最初何々等の標準を定めて可然か但し中等社會に於て普通の好みなり

八丁堀　高橋鐵也

（六）。吾邦にて最も天然の風景に富む處は何處でしようか。　同　前

右の中ち第六問に對しては成べく廣く諸君のお考を聞たし來十二月第二土曜日を以て答へのメ切とす。

答の部

（一）。純然たる自由結婚と云ふはまだ／＼行はれ得まじきもので、若し左樣にすれば反つて大層の謬を仕出かします、先づ兩親が篤と考へ、意中の男子と其友人數輩を招待し度々小宴の如きを催うし眼前にて其娘に交際せしめ傍ら彼の男子の行狀をも見分け斯くして二三个月過ろうちに娘の思ひをも問ひ又外に聞合もして相談の上へ定めなば穩當なるべし。

（二）。下婢の使ひ方には記者の考もありますが、先づ可成廣く經驗家のお說を聞ひたし。

（三）。學校の敎へ方も宜しくないでしやうが、又家の仕附方も十分でないゆへ、娘子方が家政の事に無頓着になるのです、先づ塾生ならば塾中にて成るべく家政の事を敎へ又料理の仕方などを見覺えさするが肝腎ですが、通學の女生徒には日々母の手助をさせ相應の家事を仕舞ひたる后ならでは下讀も復讀もさせぬやうにするが一つの敎へ方です。然し女生を敎育する人は先づ之にドレ程の學問さする積かと云ふ見込を預じめ定め假りに普通學五年と見込ならば四年目五年目の頃より多く家事を敎ゆるさ云ふやうに其學問年限の終の方即はち嫁入に近づきし比より十

分に教えるが宜しひです、女だからさて勿より一も二もなく家事を多く教ゆれば外の學問が自然お留守になります。

●立花いほる孃。枯れかけたる花を生かす法は色々秘傳があります、此頃ろ經驗したる一法に、しほれかゝりたる時其花の莖を熱湯の中へ三分の一ほど挿し込み、其熱湯のさめる頃迄置き、扨て此の湯の中へ入れたる莖丈けを切り棄て、又た元の如くに生ければ新らしき者のやうに成ます、試みて御覽なさい●麴町エム三宅君。百八十七號凍月孤厂の小詩は月の舍しのぶの作です●伊勢國桃洲逸人。婚姻の事に付ては總べて婚姻論(三十五錢)に載てあります又英書にてはダルヰンの著書に多く近親結婚の弊害を細論してあります●前記高橋鐵也君。婦人に基督教の事を傳ゆる平易の書は植村正久氏福音道しるべ(二十錢)又前のメレイライチン傳エリサベツ小傳(十八錢)などが宜しひでしやう●同氏温浴と水浴と衛生上効能の比較は。無論其人にも依りますが概して水浴の方が望ましひです、水浴は實に身体を壯健にする最良の衛生方で或る人は之丈けで万病を治すと迄で申します●通信女學の事に付き諸君よりのお問。之は追て御披露します●淡秋英子。露伴氏は幸田成卒といつかの讀賣新聞に見えました其他はお答申して善きか否やに當惑します●靜岡北山氏。牛乳の善惡を知る便法は石膏を飲らく溶きて乳の中へ投じ十時間程にて凝結するを善き品とし此れより早く凝結するほど惡しき品と判定するのです●新宮町一二軒。鼻を高くする明法とは實にお答にくし先づ高慢になるの外は、都の花にあつた法位ひのものでしやう。

●陸前ゆり子の君。一度用ひた毛糸を再用するとき元の様に毛を立てさせるには差當り明法を知りませぬが、一應能く洗ひ十分に干してハタクより外に致方はないと思ひ升●沼津城内鬱州女史。女子修身の教授書には差當り宮内省版の女鑑(一圓)メレイライチン傳(十五錢)聖賢名婦傳(十八錢)などが宜しひです●同しく作文書のとに付ては前號に答へ置ました同じく家政教授に參考とするは金港堂の家政讀本又弊社の婦鏡などが便利でしやう。

●氣候寒暖の事に付きて問合せがありまして之に一々答へを送りましたな其儘左に録し置ます。

氣候寒暖ある道理

問。氣候に寒暖あり、國により寒暖あるは、何に由り候乎。

赤道を離るゝ距離、海面よりの高さ、海よりの遠近、吹流るゝ風何如、などに因り寒暖あり。

問。前の諸元因の中ち、尤も重なる元因は何に候乎。

即はち赤道を離るゝ距離の遠近にてあり。

問。常雪帶と申すとの意味伺ひたし。

常雪帶とは夏の間だにも雪の消えざる所ろを申すとにて、寒き地方ほど其帶低く、温かき地方ほど高し、富士の山すら夏の間だは全く雪消ゆれど、北海道などは最と低き山にても年中雪の消えざるものなり、此の年中雪の消えざる所を常雪帶と申すなり。

問。たらば常雪帶の高き低き主も何に由り候乎。

即ち亦た赤道よりの距離、山の斜面が日光に當るの多少、雨雲雪風の吹來る工合、斜面の斜めさ急なると緩きと、其地方の乾けると溫氣あると、などに關す。

問。空氣中の溫たかなるは何に因り候乎。

一分は太陽より來る溫氣により、一分は地より反射する溫氣に因る、地球の内心より送り出す溫氣と云ふは最と少なきとなり。

問。地球の周圍に太氣あり、二十余里を越れば太氣もなく全く空虛の由し承らる、余程太陽に近きとゆへ定めし非常に熱く候はん、何如ほどに候乎。

華氏寒暖計にて、四百六十度位と申す。

問。然らば上に行くほど溫かにてあるべきに、山に登るほど寒きは何故に候。

地面より反射する溫氣の少なきゆへなり、平面に於ては太陽より來る溫氣と、反射する溫氣と二重の溫かさあるもの也。

問。然らば上に登るほど寒くなると假定し、大抵何程宛の割にて寒くなり候乎。

先づ赤道地方にて積れば、百八十英尺登る毎に華氏の一度づゝ寒くなる割に候、尤も赤道を離るゝ遠近にて此の寒くなる度數にも多少あるものなり、尤も此は濕氣少なき時に於て言ふ事にて、若し濕氣多ければ寒くなるとも少く、海面の如き濕氣ある所ろにては三百英尺に付き僅かに一度づゝ寒くなる程に候。

問。砂原は寒暖に關係あるものに候乎。

砂原は溫氣を吸ふと遲く、之を吐くと速し、左れば晝の間だは常の地面よりも冷たく、夜の間は亦た寒くなると早し、之を以て砂原ある地方は他の地方よりも寒し。

問。森林は何如に候。

晝の間は冷しくし、夜の間は溫にいたす。

問。冬中氷らざる湖池などは何如に候。

寒さを和らむるものにて、冬の間だ其近邊の寒氣を減ずると少なからず。

問。山脈の列び工合と寒暖の關係之れあり候乎。

山によりて風を吹止むれば、山の彼方は固より暖かなると言ふ迄もなけれど、斯る山は風の含む溫氣を悉とく吸取るゆへ、風上よりも風下に至るほど冬はいよ〳〵寒くし、夏はいよ〳〵熱くす。

問。以上いろ〳〵承わり候、かゝる事を論ずるは主も何の學問にて致すとに候。

クリムアトロヂーと申す、氣候學にて論ず。

問。氣候學にて近世有名の人は何方に候。

本世紀中此の學に尤も有功なりしは、「サイリアム、ハーセル」「アレキサンダー、ホン、ハムボルト」の兩氏。

時事

○天鳥食を癈らす

宮中には、去る十八日、兼て觀菊の御宴催うさるべきの處、折惡しく又々雨天にて止を得ず日延になされけるをもて、膳部にくさ〲の珍膳佳香を餘せしよし　畏こき渡りの御聽きに達し、福田會育兒院及慈惠醫院患者へ下賜すべき旨五辻大膳大夫を以て兩院長へ達せられたる趣き、感淚せきあへぬ御事也。

○女典獄

神奈川縣監獄署典獄小泉保直氏は、六十餘歲の老躰なるが、頗ぶる獄事に熱心にて、囚徒の待遇、獄內の取締方等甚はだ親切嚴重なれば、他の模範ともなるべき程也、而して其夫人栁子は無給にて日々女監へ出勤し女囚の取締を爲し居らるゝよし、彼の米國に於てすら女囚に女典獄を置くべしとの輿論益々盛んなるに拘はらず、尙ほ得て之を斷行する州は多からざるに、我國の監獄は一良婦人の慈愛によりて早く既に之を得んとす。

○黨裏　奥山

大同團結は漸やく保守黨と分離し一呼吸して息めり、則はち內に二派鬩ぎ忽まち舊自由黨を喚起す、保守黨は老ひて彌よ壯氣あり、自治黨は陰にしてます〱巧みなり、改進黨に至ては規律整然、持長來歲の戰ひに準備するものゝ如し。

○帋上　紅葉

讀賣新聞は走り、朝野新聞は退ぞき、報知新聞はドッカと坐し、日々新聞は辨じ、毎日新聞は論じ、時事新報は笑ひ、政論は悲歌を歌ひ、日本は慷慨を誦し、東京新報及び公論は躊躇して進りに待つものゝ如し。

○世間　鹿鳴

書籍賣れず、養鷄流行り、菊見少く、景氣心細く、保守熱最早や一轉の機に近づき、天上の摸樣替に賴み少なし、雪溶け櫻咲き國會開けずんば世上に活氣あるまじ。

○役人なくんば天下太平なり

國家學會に於ける由利公正子の演說は、去る廿一二兩日の日々新聞に精細筆記せられたり、終始實際經歷上の談話にして面白きと言はん方なし、特に子が天草島に渡り其地の政治別乾坤なるに驚ろきて、余は其時心窃に感じたり、日本にも役人さへなくば無事に治まり得べきものをと、左れば余自らが武士たるをも厭ふ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

心になり、既に役人根姓を棄てたる上は、別に六ケ敷き考へも入らずなりぬ、と。

子に早く此の覺悟ありつればこそ、彼の維新未曾有の經濟混亂の際、能く單身獨擔して金札發行の大業を成就せられたるなり、試みに滿朝の官人に問ふ、前件役人根姓を厭ふの一事は、未だ諸君が贊成を辱ふするに至らざる乎。

○風俗壞亂の活人畵

時事新報の記者は、彼の不潔なる圖畵が販賣を禁止せられたるを祝しつゝ、更に一歩を進めて彼の不潔紳士なるものゝ汚行を嚴責したり、云く、

爰に決して恕す可らざるは彼の紳士輩の所行なり、豪遊豪興と稱し千金一擲一夜の愉快を買ふて之に滿足するは彼輩の心事野鄙殺風景を極め酔飽の外他能なきの致す所ろにして唯だ憫れむべき耳、甚しきは靑天白日不倫の場所に出入して不倫の婦女子輩と同席同車し衆目を憚からずして却て自ら誇るものあり醜態見るに堪へず、奇語を用て之を評すれば風俗を壞亂するの活人畵と稱するも可也、と。

嗚呼時事新報記者すら尙ほ如此く言ふに至れり、政府が遊廓に對するの處置亦一轉せざる可らず、輿論は最早や妓樓を以て親鸞弘法の住宅とは見做さゞる也。

○政黨の競爭に藝妓を要す

驚ろくべき事を聞くもの哉、兼て政黨上の競爭激烈なりと風聞する石川縣下に於て、羽咋郡高濱町と云ふ處ろに勸業會ありしが閉會后列席員中の改進黨のみ懇親會を催うさんと計畫したるに、同じく大同派の人々は逸早く之を察し、同地一同の藝妓を愗搦にして敵を苦しめ、反對黨の宴會を寂寥たらしめて凱歌を擧げたりと云ふ也。　嗚呼藝妓の有無は政黨員懇親會の必要材料にして、之を欠くは恰かも戰地に彈丸なきが如く、此の彈丸を奪ふは即はち敵を餒ますの最良策なりと云ふ、我國の政治社界は抑も如此なる歟。

○福田會惠愛部

兼て記し置たる如く、從來の福田會育兒院は此度大に改正せられたり、則はち惠愛部なるものを新設し、廣告して世に贊成者を募らるゝの文に、

往に佛教諸宗の碩德あり、明治十二年に福田會育兒院を創立して、貧兒孤兒を養育するもの今に至る迄凡そ二百人、淨財の積みて現在に存するもの一万八千圓あり、實に近世の美事と云ふべし、妾等閭巷の餘り更に婦人惠愛部を設けて、朝野の閨閤を協同し、更に慈惠金を募りて、此育兒院を擴張し、育兒の事務を管理し、兼て婦人の德育を振ひ起さん爲に、月並數回の法筵を開き、諸宗の碩德を請じて甘露の法味に、霑はんさす」と

而して公爵夫人毛利安子、候爵夫人德川茛子、子爵夫人鳥尾黍子、同三浦愛子、男爵夫人楫取美輪子、及び何多仁子、辻里子、佐藤靜子、高島倉子、原禮子、田中寅子の諸夫人發起人となり、三條公爵夫人以下四十七の貴夫人贊成員たらる。實に殊勝の御事にて感喜きわまりなし、願くは其事彌よ成就して貧兒孤兒の惠を蒙ると裕かならんを。

○時務小史

・横濱共有物紛議の和解

久しく結で解けざりし横濱共有物紛議は去廿二日に至り釋然として和解したり。抑も此共有物と云ふは彼の本町に在る町會所及び其敷地其他學校病院積立金等く樣々の財產にて之を價格に積れば莫大のもの也、然るに此は開港以來同港の貿易商より取立てたる歩合金即はち一種の税の如きものにて買入又は建設したるものなれば、同港を一の自治制の下の市となすに付ては此を横濱全市の所有となすべき道理あり、然るに又一方の考によれば成程共有物の姿たありと云へど元と貿易商のみより取立てたるものにて云はゞ其積金の如きものにて出來しものゆへ、此を貿易商組合のみの所有となす理ありと言張り、双方一應の道理により夫々申募りたるが、貿易商の多數を以て成立てる同港の町會に於て難に之を貿易商の專有とすべき旨に議決し、戸長に向つて其議方を申出で、戸長より神知事に伺たる

●本日群馬縣會に於て廢娼の大議論ありて十七名に對する廿九名の多數を以て斷然廢娼に決議致候(廿六日)●上毛青年會報

に、知事は該議決に認可を與へざりし、左れば戸長も亦た之に隨ひ彼共有物讓渡を爲さゞりしにぞ、貿易商は戸長を相手取り法廷に訴へしが、其中分立たず賣さなり、即ち彼の共有物は横濱本町外十三ヶ町の共有物となれり、されど貿易商は之に屈せず終に東京控訴院に上訴したるが、其間だ多くの盡力ありしに拘はらず、仲直り六づかしく最后の調停も一ヶ月前不幸にして調わず、其上地主派商人派の競爭いよ〳〵激しくて、市會久しく開けず、遂に內務大臣の嚴命にて市會を解散するに至り、全國第一の市にして最初の暗黑界とふれるゝど歎息千万の事なりしが、此頃に至り双方とも大に悟る所ありしか共有物を程好く半分し、半ば十四ヶ町の共有とし、半ば貿易商等の協有にすることに相談纏まり、双方より訴訟を願下ることとなれり。

女報

○貴夫人參內　各大臣の夫人を始め公侯伯爵の夫人は去る廿一日參內して　兩陛下に拜謁の上前日催ふさせ玉ひたる觀菊會陪覽の御禮を申し上げられたる由。

○赤十字社　の本病院は當今澁谷村に新築中にて來年夏比迄には落成の見込の由、而して同地所は向ふ百ヶ年間拜借の事となれり。

○鹿鳴舘音樂會　本誌第百八十六號に載せたる御殿場の癩病院其他の爲めに去月十七日に催ふしたる鹿鳴舘の慈善音樂會は入金及び遣拂左の如くなるよし、

入金

八百八十四圓　入場券一枚二圓、四百四十二枚代

出金

三百八十九圓	御殿場癩病院へ寄附
三百八十九圓	赤羽根傳道會堂へ寄附
五十圓	關口孤兒院へ寄附
五十六圓	當日席上入用
計	八百八十六圓

扨て御殿場癩病院へ對する寄附金を横濱及東京メール新聞社にて募集したるが去廿三日迄にて七百〇四弗十五セントありし由ゆへ前の三百八十九圓を合し、凡そ一千〇九十三弗十五セントとなる神父テステーヴァイデ (F. Testervide.) 慈善の事業大なる助を得たりと云ふべし。

○島田三郎氏　は去る二十六日前橋小柳町に開きたる上毛青年聯合會の廢娼大演說會に招待せられ演說あり大雨中聽衆三千人大喝采ありぬ。

○廢娼建議　上毛青年會の石高渡邊二氏外千百七十六名より縣會に向ふて建議し、之に先つ一日那波郡、玉村町の町田氏外百卅三名より同じく建議したり。

○歸朝　東京慈惠醫院の看病婦林きを子及奈須せい子は兼て病人看護法研究の爲め廿年七月より英國倫敦府の醫學校へ留學中の處此程卒業して去廿三日歸朝す。

○產婆會　府下十五區六郡內の內務省免許產婆諸氏は去る廿七日京橋區議事堂に於て會議を開きたり。

○養育院　去廿二日香川皇后宮太夫は養育院を巡視したり、之れ皇后陛下の御思召に出づるとならんと風評せり。

○監獄誓約書　仙臺監獄の教悔師朝倉寬雲氏は犯罪者が改悔の狀著るしく特典を以て假出獄を許さるゝ者又は滿期によりて出獄するもの再び擊獄の身とならざるやう誓約書を認め置かしむることを建議したり。

○女子部の議　師範校內に女子部を置んとの議案、神奈川縣會にも亦た兵庫縣會にも呈出せられたれど共に廢棄せられぬ。

○埼玉慈善會　の本部は浦和に在り本年五月以來成立つ各郡部に支會を設け貧民子弟の教育、感化院、免囚保護、監獄教悔等の事を取斗ふよし、去廿七日は浦和町清閑山に於て明治元年以來埼玉縣監獄四にて死亡したるものゝ追弔を爲したり。

○音樂學校　卒業生男女七名あり式は來月十日。

○遊廓女紅場　奈良縣の警察署長奈良氏及縣立病院長矢邊氏醫師伊藤氏等の發起にて奈良町に一の女紅場を設け娼妓等に授業のよし。

○淑德會　大坂府高等女學校の教頭小川幸子外十氏は發起人となり有志者の贊助を乞ひ淑德會なるものを組織し本部を中の島宗是町三十番屋敷に設置し支部を東京小石川區上富坂町十四番地に設置せんと目下協議中の由。

●遊廓取拂の議　岡山縣下の基督教青年會員及び師範、中學兩校の生徒を始めとして岡山市各私立學校生徒諸氏は連署して東西中島の遊廓を取拂はれんことを其筋へ請願せんと當時調印中なりと。

○川上婦人會　は昨年創立以來次第に盛大に赴く由にて此の程の集會に於て規則の改正を爲し會名を川上女子親睦會と改め專ら友誼上に智德を養成するの目的なりと云ふ。

○西京高等女校　、の卒業生井上高及廿三名は同校の爲に資金募集の發起人となり盡力す。

新誌

時事新報　二十日　衛生の進歩●廿一日　人情變化●廿二日　政府部內の事情●廿三日　政府部內の秩序●廿五日　社會の風儀●廿六日　情實の病根除く可し

朝野新聞　二十日　好機失ふ可らず日本の國威を宣揚するは今日に在り●廿一日　接前●廿二日　接前●廿三日　菓子稅則改正願の一條●廿四日　參事院再置の議果して眞歟●廿六日　三十日間の政況

日本　二十日　善後策如何●廿一日　承前●廿二日　自由黨再興の計畫●廿三日　現時の侵略國●廿四日　廿一日檄●廿六日　官職及官吏

日々新聞　二十日　法律上の制裁と道德上の制裁は社會の進歩と相伴ふを免れざる歟●廿一日　接前●廿二日　井上伯に望む●廿三日　横濱共有物紛議の和解●廿六日　代議制度の民たるを勉めよ

政論　二十日　政府人民並に外國の關係●廿一日　商業社會腐敗の本源●廿二日　人民の希望を空くする勿れ●廿三日　人民の失望如何せん●廿六日　我内閣諸公の腕前

報知新聞　二十日　府縣制一日も速に發布せざる可らず●廿一日　機關新聞、中立新聞●廿二日　承前●廿三日　決鬪に關する警察の取締如何ん●廿五日　承前

讀賣新聞　二十日　怨讐忘るゝは可なり善後策を献ずるの責任は負ひ難からん●廿一日　井上伯の歸京●廿二日　事務官は安心して事務を執らざるべからず●廿三日　來年の候補者より候補者代を取立つべし●廿四日　強固なる内閣を作て外交の方針を一定すべし●廿五日　井上伯の幕賓に代てガゼット記者に答ふ●廿六日　ガゼット記者に代て井上伯の幕賓に答ふ

毎日新聞　二十日　日本政府部內の雜局●廿一日　日本の警察を如何せん●廿二日　宮中顧問官とは何ぞや●廿三日　接前●廿五日　郵便信書の安全●廿六日　接前

東京新報　二十日　府縣會議員に忠告す●廿一日　承前●廿二日　演藝の改良●廿三日　擴爽的反動を防止すべし●廿四日　藝娼妓營業税の性質●廿五日　天下の識者は皆改進黨なり●廿六日　自由黨の組織

●新刊

小文學　毎週發行　一冊二錢半

教報　毎週發行　一冊一錢宛

小文學は其廣告にも見えし如く一派の風流心を以て出現せしものと見へたり、又其名の示す如く小微簡固なる雜誌にてあれど撰擇宜しきを得て、讀行く間最と面白く覺ゆ○教報は基督教新聞に似て更に約し短易にして廣く傳わらんと欲するものに似たり、教報とも稱すべきもの少なければ信仰を養ふの料あり。

○井上伯の涙

井上伯の涙もろき事は兼てより聞き居りたり、然るに伯に尤も緣故ある日々新聞が、今日に至り斯く飾度涙もろしくと記して、殆んど隔日一辨の割を以て論ずるを見れば、伯が現今の地位亦推察するに餘りあるべし、日々新聞二十二日の社說に「今日輿論が伯をして此難件を處分せしめんと望むは、伯をして其昔日の政略を實行せしめんとするにあらず、又大隈伯の志を繼ぎ其政界を實行せしめんとするにもあらず、全く伯の經驗と智略とを假りて今日輿論の所望を遂せしめんとするに外ならざる也」と辨じ、伯は今日の輿望身に歸したるを思ひ、たとひ出來ぬ迄も一つ遣り除け、万一失敗せば其時須らく言ふべし「我輿論の所望を行はんと欲して彼之を聽かず我又之を何如ともするなし」と。嗚呼日々新聞は櫻癡居士を失へるを惜まず、第二吾曹子の巧論法既に如此く先代に似るなり。

○我内閣諸公の腕前

廿六日の政論は面白く論ぜられたり、但し其論沈痛慷慨にして能く急所を刺す、吾人は我内閣諸公の腕前何如んを評せんとて之に贊成するにあらねど、吾同胞の餘り人を見る明なきに歎ぜんとて之に同意する也、云く「既に歷々其腕前を振はれたる諸公に對し徒に虛名を負ふて未だ其才を試みざる新奇の人物に於けると同樣の感情を發するは寧ろ諸公の是迄の經驗を無にする者と云はざる可けんや豈に伊藤黑田兩伯の前后辭表を呈せらるゝや我在野有志は亦遽に驚天して異常の出來事と看做し且又兩伯が其辭表を呈せらるゝと同時に其人物柄即ち其英雄柄の一變せられたるかの如くに何か是迄兩伯の慣手段に非ざる新奇の手段にても出さるゝとを期望するが如きの狀を露はせり何ぞ知らん我內閣諸公が各々天に受け玉へる大才異能は數十年前より一定し來りて一分一厘も增減ある可き筈無きとを諸公は定て我在野有志が斯程迄に諸公の腕前を監識するの明に乏しきを笑ひ居らるべし諸公は定て我在野有志が諸公を看做て三五年の間に歷々其人物柄即はち英雄柄を變ぜらるゝを恰かも七面鳥の如くなりと爲すを怪しみ居らるべし」と。我同胞少しく愼みて可也、いつも〳〵謝安の山を出るを待ち構へ、此謝安が出ても決せられず、則はち次の謝安を望み、一謝安、一謝安と續々他の刺激を要求して日を暮す如きは明治政府などに無きと也、我同胞少しく言を愼しみて可也、常に左樣に人を要め居るとを言ふは自分の決心力なきを示すものにて、本來至つて恥かしきとにてある也。

○東京新報及自由黨

健筆の端よく花を散ず古への蘇老泉に似たるものは東京新報の文なり、其論堅實にして氣慨あるものあり尤も愛讀すべし、間ま亦た粗大空漫なるものあり其策恐らく內務縣治に効あるを少なからん、近日「自由黨の再組識」と題したる一篇の如きは、論旨公平大胆にして立言極めて壯快なり、思ふに后の自由黨員たるものは深く之に首肯する所なくんばあらじ。云く、余輩が自由黨の愛すべき好處なりと云ふは其首領雄藩に出でながら至て藩閥黨の習氣なきと也其板垣伯を戴きながら至て人物黨の臭味なきと也其組織單純にして平等に反する階級的制置なきと也其運動粗豪にして機詐を挾むの風なきと也其法界簡率にして貨利權勢に綠附するの風なきと也、而して其弊處は理想的自由を崇拜して經綸の政策に疎なると也動もすれば他黨を相容るべき處に相容るゝ能はずして高知愛知地方に於けるが如く瑣末の事に付相爭ふと也貨利に汚るゝと少き代りには腕力沙汰に流るゝと稍や多きと也、と。而して此三弊を醫するの三策を辨じ、且つ后來之に宗教的紛爭を混入するに至らざらんを望めり。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○千古の好機失ふ可らず

尾崎君遙かに一の慷慨文を朝野新聞に寄せ、題して「好機失ふ可らず日本の國威を宣揚するは今日に在り」と云ひ、米普佛既に新條約に賛成するに拘はらず英國特り驕然として之に不同意を表するの無禮に乘じ、正義及自信に據りて斷然果行し、國威を万邦に宣揚して、我國を世界第一等國の仲間に入るべしと云ふ。學堂君未だ外務伯の傷けられたるを知らず、新條約案もろくも中折せんさするを知らず、彼の鬱々誇色あるロンドン百万の市民中に介居し、轡勒止む能はずして遂に此文を作る、吾人は其愛國の至情切なるに動くもの也、

○しがらみ草帋の小說論

其第一號は既に角、本月發行の第二號は非常の光彩を發したり、特に北邱散士の「小說家の責任」、及び森林太郎氏の「現代諸家の小說論を讀む」二篇は尤も有力にして且つ有益なるもの也。散士は云く、小說家は眞理の發揮、人生の說明、社會の批評の三責任を盡さゞる可らず、之を盡し得ざるは未だ小說家にあらず辛ふじて話家と云ふを得べしと、而して今の小說家に向つて勸告すらく、諸君は眞理の發揮者ならざる可らず人類の先導者たらざる可らず社會の案内者たらざる可らず故に諸君は天下第一の先進たらざる可らず、請ふ爾實に小說を著く勿れ、道樂に小說を當く勿れ、戲に小說を著く勿れ、多く著んとする勿れ、眞實の小說を當んさせよ、注文に應して著く勿れ、內界先づ熱し外界是に應じ慾然感得する所ありて筆を採るべしと、嗚呼是れ奮群裏の鶴聲なり、吾人太たく之を重んず。森氏の評論は凡そ十九頁に渡り引證論材極めて鄭重ふり吾人は近時の評文中如此く長く如此く勉めたる如此く眞實なるものを見ず、坪内山田饗庭森田等の諸論者及び大同新報讀賣新聞等の小說論を批評し傍ら吾人が小說論界虫に美善關係說を難ぜられたり、之に付ては吾人再三愚見を述べたれば今は復た(自然を寫すと云ふと、今の自然は其儘に寫すにあらずと云ふ事、以上二論毫も矛盾せず吾人は敢て遷移したるにあらで尙前の如くに確信すると本誌一八〇號八頁松羅堂主人に答ふる文中に畧辨せし如し、と申し置く外は)論ずるをなけん況んや斯く迄に精細に論ぜられたるものに輕々答辨するの力吾人に之なきに於てをや、只だ吾人は同氏の何如にも熱心なるに服し又此雜誌の能く其責任を盡すを慶す。

●經濟雜誌責任論

嗚呼何んぞ其の論鋒の正大公直なる、愛國の情帋面に滿々たり、自信の念文中に貫流せり、吾人近來に於て未だ如此く壯快忠直なる責任論を見ず、

週報

○官令　十九日勅令第百二十號を以て海軍生徒手當金規則を裁可せらる同二十日內務省令第十一號を以て米國に於て發行する第十九世紀と題する新聞の內國に於ける發賣頒布を禁止せらる●廿日旅費其外概算渡前金渡の件を裁可公布せらる

○官廷　來る二十三年一月御歌會始の讀師を鍋島直大氏に講師を北小路隨光氏に發聲を正親町實德氏に講頌を大原重朝、室町公康、綾小路有良、竹屋光昭、五辻支中、石山基正の六氏へ仰付けられたり●去る二十日聖上皇后兩陛下には赤坂離宮へ行幸啓あらせられ有爵者諸氏を召して觀菊の御會を開かせ給ひたる由●去る二十二日朝彥親王第四女飛呂子女王薨去●明宮嘉仁親王殿下には皇太子に宣下在せられしに付去る二十五日宮中に於て祝宴を開かせ給ひし由

○政治　十九日各大臣は內閣に參集して會議を開きたり●十八日東京始審裁判所豫審判事松岡歸之檢事恩地轍の兩氏は朝倉書記と共に壯士雄飛社へ出張して發行人編輯人を拘引し嚴重に家宅を搜索せり●井上伯は十九日歸京せり●司法省にて開きたる會計會議は二十日を以て閉會せり●伊藤伯は二十一日參內せり●二十日麴町八丁日晒崴院に開かれたる政談演說會は中止解散を命ぜらる●廿三日喚鳴會の諸氏は淺草鷗遊館に於て政談討論演說會を開きたり●井田讓氏は廿二日特旨を以て男爵を授けられ正三位に敍せらる●廿二日各大臣は內閣會議に參集せり●濱松にては廿三日大同團結派の結黨式演說會を爲せり●群馬縣平民高橋庄之助氏は府下に於て一ヶ年間演說禁止されたり

○外交　土方宮內大臣は去る十八日葡國公使を訪問したり●去る十八日青木子爵夫人は布哇公使館を訪問せり●淸國公使は去る廿一日朝鮮公使を訪問せり●去る二十日伊國公使は各國公使及び領事を招きて夜會を催したり●葡國公使は去る廿二日朝鮮公使を訪問せり●佛國公使は去る廿二日大隈伯を訪問し夫より外務省に出頭し靑木次官と密談したり●去る廿一日英、米、露、伊四公使は佛國公使館へ參集して協儀を爲したり●伊國公使は去る廿五日外務省へ出頭したり

○新誌　福陵新報は去る廿一日閉停●廣島新聞は大同團結の機關新聞となれり

○會社　兩毛鉄道線路中小山前橋間は廿日より運輸を開始せり

○美術　彫工競技會にては廿日褒賞贈與式を執行せり●詩人森春濤翁は廿一日死去す●大日本閨藝會にては廿四日上野公園美術協會に於て臨時總會を開き規則の改正役員の改撰等をなせり●日本美術協會々頭佐野常民氏は松方大藏大臣高崎東京府知事を始め府下の紳商二十名を去る廿七日銀行集會所に招待して日本美術協會常設館建築の件を協議したり

○雜報　橫濱共有物事件は去る廿一日和解の局を結びたり●歌舞妓座は去る二十日開場せり●去る廿二日富士見町富士見軒に於て大學出身の諸氏はダーウヰン氏の紀念會を開かれたり●去る廿二日舊宇和島藩主伊達宗紀君薨ず●去る廿四日芝紅葉館に於て十万石以上の華族の懇親會を催ふさる

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

●學士會院原坦山大先生題字
●南蕉庵主平澤丁元先生著述
●版權所有

見聞不遺
終身不忘

記臆增進奇法

（ものをぼゑわすれぬきほう）

全一册洋綴美本正價郵税共廿七錢郵劵代用四割増

本書は著者が數年前より哲理、心理、禪理の學理的應用と藥力的の作用とを折衷酌量して種々實驗研究し本年十月に至り始めて**奏效確實にして且完全なる良結果**を得たるを以て伺ほ十數名の知人朋友に示し實施せしめたるに何れも同一の效果を得て最早寸毫疑ひなきを以て一は弘く此新奇法を世人に傳へ同胞を益せんが爲め一は常時二三の奸商輩が偏倚無效の記臆法書を出版し誇大飾言の廣告をなす爲め世人が之に迷ひ多額の金圓を濫費するを救はんが爲め内務省に請ひ**版權免許**を得て且つ普及を計る主意に基き殊更に極めて**價を低廉**にし爰に發賣するに至るものなり己に說く如く本書に示す奇法は世界未發の新法にて此法を施せば生涯疾病に罹ることを免かれ精神快爽智力活潑となり**記臆力大に增進**し人世百般の見聞更に忘るゝことと無きに至るは著者が確證せられたる所なり世人請ふ速に本書を繙き其眞味を驗せよ●●●郵便小爲替は東京神田郵便局取組の事●着金の即刻送本す●東京神田末廣町十番地

專權一手發賣所　共益商舍

本校此度新築落成し敎則を改良し女子必要の學科を懇切に敎授す目下若干名の女生徒を募集す入學望みの方は至急御申込あれ敎師は內外人數名月謝一圓束脩一圓寄宿料三圓

横濱居留地山手二百四十四番

横濱英和女學校

交詢案內

（催促する勿れ郵劵十錢送れ委細に申來れ）

●雇ひたき方（甲）

十二	下婢	年齡廿歲より五十歲迄の基督信者を雇入度者あり
十五	召使	家內の手助けとなり小兒の世話をすべき年少女子を雇ひたし尤も讀書習筆を學びたき志あるものを望む
十六	召使	重に小供の世話及裁縫等にして家事の手助けとなるべき年少の女子を雇ひたき所あり但官員の御內なり
二〇	取締	基督教信徒にて年齡三四十才なる獨身の婦人にして女學校に寄宿し寄宿生徒の世話を爲し得る者を備入れ度處あり但し算筆並に日本裁縫に心得ある者
二一	中働	年齡廿五才にして一ト通り裁縫の出來るものを一圓以上の給金にて雇ひ度處あり
二四	召使	年齡十二三才のものにて學事に志あるもの、學資に差支へ候ものを無給にて雇ひ入れ餘暇に學藝を敎へらるゝ所あり
二五	召使	十二才以上の小女にて實直なるものを給料一圓にて雇ひ度所あり

●雇はれたき方（乙）

六	奉公	地方師範學校卒業生にて學資に困むに就ては可成西洋人宅にて兩人協力勉學旁雇はれ度二娘あり無給にて何地にても宜し
七	裁縫	年齡廿三にして家內の手助けとならんが爲め內職に裁縫に雇はれ度き者あり華族樣か町家ならば大家のかたき內にて築地邊ならば通いても宜しさのと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し
十三	敎師	栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御內にても敎授ョ雇はれ度ものあり可成は麴町か駿河臺邊を望む
一九	召使	裁縫の敎授を專にし其他女子學校等監督兼留守居樣の者に雇れたし
二四	奉公	年齡廿二才にして一ト通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし
二五	裁縫	裁縫は重もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御內に敎師に雇れたし
二八	奉公	普通小學科卒業の者にて（年齡二十二才）產婆業を營まるゝ基督信徒の家に無給にて雇はれ餘暇に產婆術を學び度ものあり
二九	奉公	年齡十四歲にて基督敎信徒の家（可成は西洋人）に雇はれ度ものあり尤も普通食料小使仕着等一切持參致すに付き毎日四五時間英語學の脩業致したし
三〇	通辨	年齡廿四歲にて貴婦人方の英語の通辨として雇れ度ものあり
三一	奉公	廿一二才のキリスト信者にて裁縫を敎へ家內の手助けをなし四時間通學を爲し得る家に無給にて雇はれたきものあり
三五	奉公	年齡十五才の高等小學卒業生にして余暇に勉學の出來候御宅へ雇はれ度ものあり但し給料は望みなし

交詢案內に掲載するものにして數月に亘るも雇はれざるものも有之旣に御當人に於て方向御定めに相成候方も少なからず候間以來は大凡そ三ヶ月を限り本紙上に廣告致候ことに決定仕候間左樣御了承可被下候　女學雜誌社交詢案內部

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

看病法講習生募集

年齡滿十九年以上滿三十五年以下夫ナキ女子ニシテ家計上ニ係累ナク常ニ院内ニ宿泊シ專意修業シ得ルモノ五十名ヲ限リ入學ヲ許ス志願ノ者ハ規則等庶務掛ニ就テ承合來ル十一月三十日限リ入學願書ヲ出スベシ
但修業中ハ食餌制服夜具等ヲ給與シ患者ニ附添中ハ日給ヲ給スベシ

入學試驗科目
一　讀書　本院規則書類
二　作文　簡易ノ往復文
三　算術　加減乘除
四　體格

明治廿二年十一月
醫科大學第一醫院

婦女災害義捐金は來る十二月二十一日(第三土曜日)を以て第一回募集〆切期限と相定め候に付有志の御方樣は夫迄に本社へ向け御送金可被下候
明治二十二年十一月　女學雜誌社

婦女災害義捐金寄附者姓名

各地へ
金壹圓　伊豫國松山　三宅泰介
同二十錢　福島縣若松寺町　酒井隆
同二十錢　靜岡縣靜岡市　ユーシーディ
小計金壹圓四十錢
合計金二百七十圓八十九錢

同志社義捐金寄附者姓名

一金參圓　第一高等中學校基督信徒青年會有志者
合計金三圓二十錢

小文學

每週發兌　一號十一月廿一日發

聯珠
關東五郎　紅葉山人
磯馴松　錦袋逸人
惺因　乙葉庵主人
寒相如　柳涙子
寸錦
伊原西鶴を弔ふ文　露伴
子、日本小說の三大家
不知庵、獨逸戯曲の種
別忍月居士、
餘香
出女の說　木導
蕪心
戀百韻　百梦
羽がき　太
洪水　湖處士
鉄槌
しがらみ草紙評判
戀川綾町

一冊二錢五厘　郵税五厘　十冊二十錢　郵税五錢　廣告料一行六錢

目眩い樣な今の文學界に新光彩を放たんとの野心もなければ雅俗の腹をゑぐる大望も持たす文學界の我儘者と云われ度を身の願にして小文學出現せりがらは小さし價は廉しさげすむとは向ふの醉興にして此方は構はす人を論するは棺を蓋ふの後にありこれを評せんとせば先第一號を御覽の上……それも御勝手

小文學發行所
東京谷中初音町四丁目十二番地

通信女學講義錄

殘本安賣

通信女學講義錄は一冊大抵六七十枚づゝあり母親又は妻君が家に在りて女學の一と通りを學ぶの工夫あれば二三年の後は和學、理學地理、歷史、及び子育法、女子生理、家内理學、經濟學などの一班を居ながら學び得べき方法あり一冊代價二拾錢の處大勉強一冊拾錢に其の定價を減じ即ち十五册自一巻至十五代金壹圓五拾錢無遞送料にて賣拂ひ申すべし

女學雜誌社
麴町區富士見町二丁目一番地

本校の學期は豫科三年本科四年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす每科受持の教員は孰れも熟達善良なり然して本校の教授は實に完然なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

廣告

拙者儀櫻井郁二郎氏**産科婦人科病院創業**以來同院中は本務の繁忙に紛れ適知友諸君の來訪及請診を謝絶致し、向も往々有之候處今般同院を辭し左の地に於て**來十二月一日開業**

每日午前八時より**宅診** 午後一時より**往診** 汎く可應依賴候此段知友及江湖諸君に報ず

市内は勿論市外近縣へも急診の依賴に應ず

東京市日本橋區濱町二丁目拾七番地（千歲座の河岸通り中の橋きは）

産科婦人科　楠田謙藏

日曜叢誌 每月一日發行○第一號十二月一日發行 壹冊定價金五錢、一年分前金五十五錢

今般新たに題號の如き雜誌を每月一回發行し基督教文學として有益なる論說●說教●史傳●雜錄●格言●教報●內外紳士淑女の寄書を掲載せんとす大方の諸君請ふ愛讀を賜へ

第一號目次●發刊の辭●聖日に關する教訓●聖公會祝日表●監督ビカステス氏の書簡●降臨節教訓●教報數件●師父ダミエンの事業を略記す●埃及の旅人●雜錄數件●疑問●讚美歌

發行所 麻布區飯倉六丁目十七番地 **日曜叢誌社**

欧米各國 **時計特別廉價販賣廣告**

貴婦人用瑞西國製十五形十八金無双表蓋金剛石入兩面彫刻側 Spiral hair Spring 器械中心ヨリルビー石入ニッケレト二重髯 Compensated Balance Stright Line Lever 切天符向ピアンクル龍頭卷懷中時計特別代價金六拾五圓

貴婦人用瑞西國製十八金無双側器械中心ヨリルビー石入シリンドル龍頭卷懷中時計特別代價金二拾五圓ヨリ三拾五圓迄

貴婦人用瑞西國製十八金片硝子器械ルビー石入シリンドル龍頭卷懷中時計特別代價金拾四圓ヨリ二拾五圓迄

貴婦人用瑞西國製銀側片硝子器械ルビー石入シリンドル龍頭卷懷中時計特別代價金七圓五十錢

貴婦人用瑞西國製金着セ側片硝子器械ルビー石入シリンドル龍頭卷懷中時計特別代價金八圓貳十錢

貴婦人用瑞西國製不變色白銅側器械ルビー石入シリンドル龍頭卷懷中時計特別代價金四圓五十錢

佛國新發明不可思義懷中時計銀側特別代價金貳拾七圓同鉄側金貳拾五圓金側金八拾五圓

貴婦人用米國製無双側懷中時計特別代價金廿五圓ゟ五十圓迄

其外男子用金銀鐵ニッケル諸金屬側懷中時計各種

金銀指環腕環諸金屬裝飾品各種

ヲルゴール類大中小特別代價金十圓ヨリ四十五圓迄

瑞西別製ヲルゴール風琴リン木琴大鼓入軍歌八段特別代價金二百圓

右の品々堅牢なる品相撰み同盟保險證を付し特別廉價を以て御求に應じ候間不限多少御愛顧御用向之程奉願上候此外金銀銅鐵諸金屬時計側同鎖指環腕環裝飾品類御注文に應じ確實を旨とし廉價を以て速に調達仕候間是亦御用向之程奉願上候也

但し後日金性等に相違有之候節は何時たりとも無差支納代價を以つて御引取可仕候是亦併せて廣告仕候

東京市本郷區本郷二丁目廿二番地

時計商　中山直正

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

文部大臣　海軍中將子爵　榎本武揚公題字
帝國大學　醫學士　産科婦人科教授　濱田玄達先生
醫科大學　醫學士　小兒科講師　弘田長先生　校閲
醫學士　三島通良先生編述

はゝのつとめ

○高等女學校尋常師範學校等家事育兒科教科用
○醫科大學第一醫院産科婦人科及小兒科病室用參考書

親の巻
婦人懷妊出産より七夜中養生法
定價金三拾錢　皆郵稅共

子の巻
小兒分娩より學齡兒となる迄の
養育法及教育法定價金四拾五錢

○文章は談話躰の平假名文○石版木版畵入日本綴美本○婦人方への贈物には此書物に勝る好物なし

本書は出版以來未曾有の好評を得一ヶ月ならずして六百余部を賣盡し候位なれば今更其善良なるは申迄も無く今度は又

恐れ多くも榎本文部大臣の御傳獻を以て皇后陛下御手許へ獻上

相濟み著者の面目此の上もなく候されば世の貴婦人君子必ず一部を購ひて國家を利し己を益し給へと云爾

發兌書肆
日本橋通三丁目　丸善
同通塩町　中央堂
馬喰町　島利
本郷春木町　島利

發兌
十月。五日　十九日　廿六日
十一月。二日　九日　十六日　廿三日　三十日
十二月。七日　十四日　廿一日　廿八日

定價
一册。六錢　郵稅。五厘（但府内無郵稅）
十册。五十八錢郵稅。五錢（同前）
半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓五十六錢
一年分　二圓六十錢　府外は　二圓八十六錢

廣告
特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む
一行　一回　前金拾錢（廿七字詰）
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる書物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌ハ今後女學校又ハ婦人會杯ヨリ毎發兌十册以上一纏ニ御注文ノ向ヘハ別ニ十册毎ニ一册ハ無代ニテ進呈可仕候

明治二十二年十一月廿九日印刷
明治二十二年十一月三十日出版

東京麹町區富士見町二丁目一番地
發行所　女學雜誌社

東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留
編輯兼發行人　巖本善治

東京芝區源助町十一番地寄留
印刷人　森田豐

遞信省認可

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price 6 *sen*. By post *yen* 1.56 six month; *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan.